

2 大津市の概況

2-1 社会環境

(1) 位置

大津市は、琵琶湖に面し、滋賀県の南西部に位置する県庁所在地である。

大津市役所から各地への直線距離は、平安京の置かれた京都市までは8km、難波宮があった大阪市までは50km、^く恭仁京があった木津川市までは30km、平城京があった奈良市までは40km、藤原京があった橿原市・明日香村までは55km、江戸時代に城下町が築かれた彦根までの直線距離は45kmである。また、中京圏の中心地である名古屋市まで約100kmの距離にある（図2-1）。

市域は、東西約20.6km、南北約45.6kmと南北に長く、総面積は46,451haを有する。

このように大津市は、琵琶湖に面し、比良山系、比叡山、音羽山、田上山などの山並みに抱かれ、琵琶湖から唯一流出する瀬田川をはじめとした河川も多く、水と緑豊かな都市である。

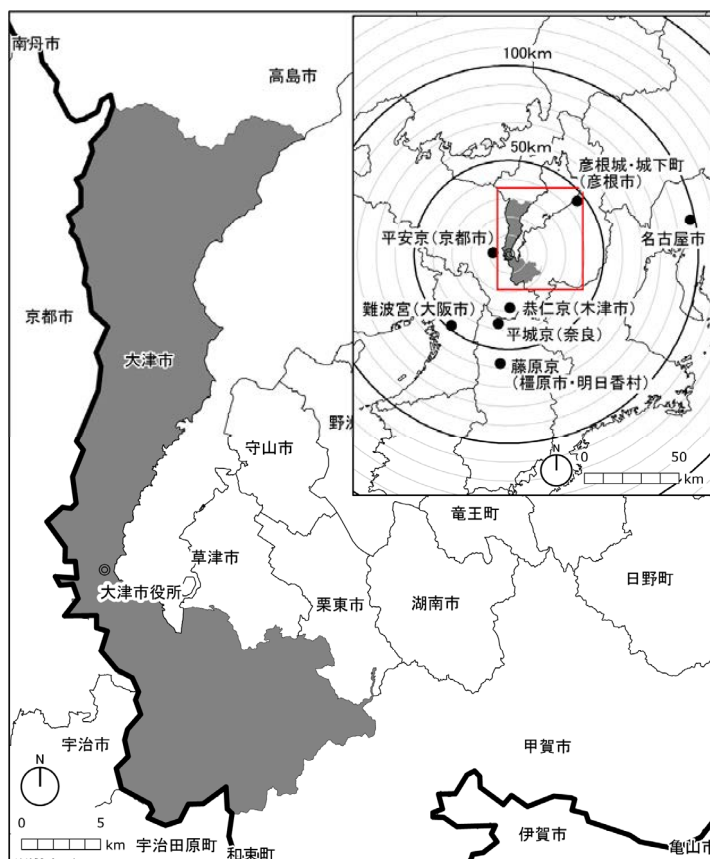


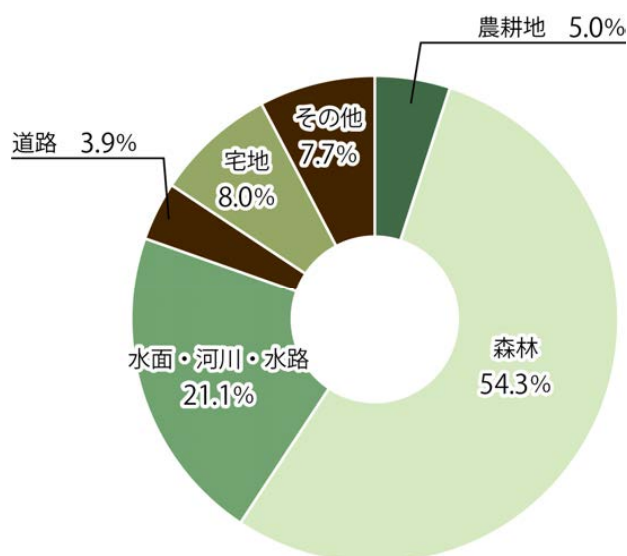
図2-1 大津市の位置

(2) 土地利用

大津市の土地利用の現況は、図2-2、図2-3のとおりである。

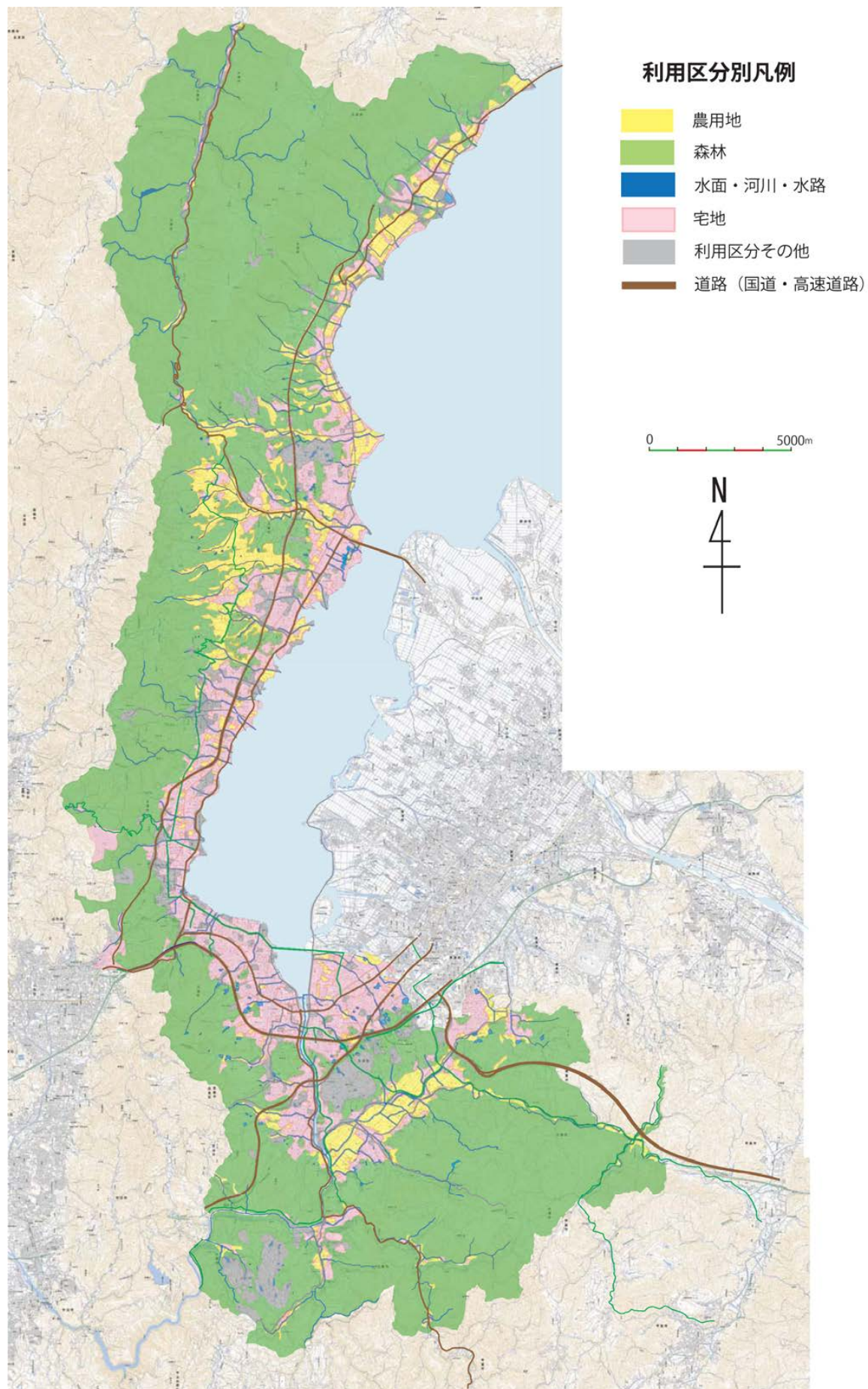
森林が市域の54.3%、水面・河川・水路が21.1%を占め、宅地（住宅地・工業用地・その他の宅地）は、琵琶湖湖岸に沿って南北に続き、市域の8.0%を占める。

市域の5.0%を占める農耕地は、土地基盤整備が進み、優良農地の維持・保全が図られている。また、山地と琵琶湖に囲まれた大津市には、大小さまざまな棚田がある。中でも、仰木地区には馬のヒヅメの形に似ていることから、“馬蹄形の棚田”として有名になった棚田をはじめとして、大津市を代表する棚田地帯が保全されている。



出典：第5次大津市国土利用計画（平成29年3月策定）より作成

図2-2 利用区別面積の割合



出典：第5次大津市国土利用計画

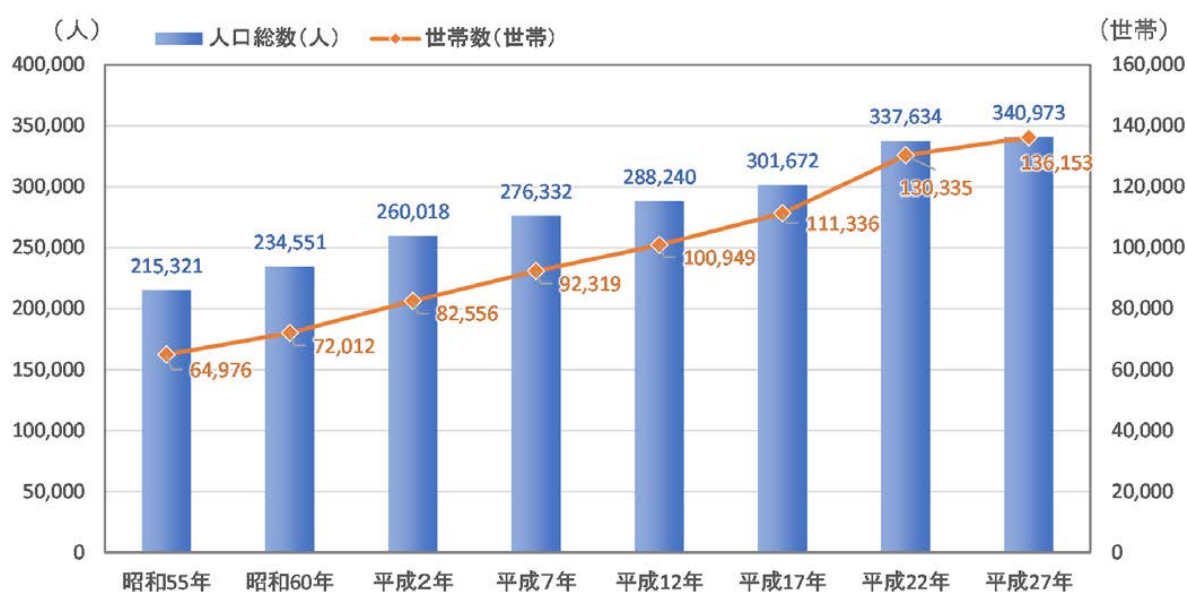
図 2-3 土地利用図（利用区分別）

(3) 人口・世帯数等

大津市の人口は、ゆるやかに増加を続けてきており、平成 22 年（2010）から平成 27 年の 5 年間で、3,339 人（増減率 0.99%）増加して 340,973 人となっている。世帯数も同様に、ゆるやかに増加し続けてきた（図 2-4）。

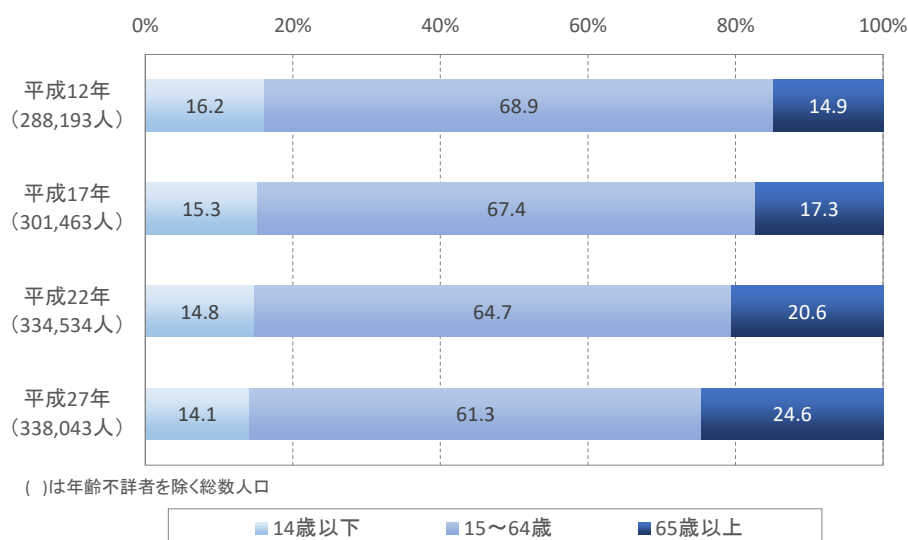
年齢別の人口では、年少人口（14 歳以下）及び生産年齢人口（15～64 歳）の割合が減少する一方、老年人口（65 歳以上）の割合が増加し続け、平成 27 年には、高齢化率 24.6%となっている（図 2-5）。

平成 27 年国勢調査による地区別人口をみると、J R 琵琶湖線・湖西線の駅近隣の地区である、平野（16,463 人）、晴嵐（17,470 人）、瀬田北（18,239 人）、唐崎（16,205 人）、堅田（18,437 人）等が多くなっている。一方、葛川（231 人）や真野北（6,538 人）、日吉台（3,652 人）、石山（10,975 人）、藤尾（5,254 人）等の内陸部およびニュータウンでは、平成 22 年から平成 27 年にかけての人口減少率が高い地区が多い（表 2-1）。



出典：「国勢調査結果」（総務省統計局）より作成（各年 4 月 1 日現在）

図 2-4 人口・世帯数の推移



出典：「国勢調査結果」（総務省統計局）より作成（各年 4 月 1 日現在）

図 2-5 年齢別人口の推移

表 2-1 地区別の人口・世帯数の推移

地区名	人口（人）			世帯数（世帯）			世帯規模（人／世帯）	
	平成 22 年	平成 27 年	増減率（％）	平成 22 年	平成 27 年	増減率（％）	平成 22 年	平成 27 年
小松	4,166	4,116	▲ 1.2	1,449	1,535	5.9	2.9	2.7
木戸	4,385	4,531	3.3	1,474	1,572	6.6	3.0	2.9
和邇	9,007	8,746	▲ 2.9	3,046	3,144	3.2	3.0	2.8
小野	4,803	4,432	▲ 7.7	1,789	1,800	0.6	2.7	2.5
葛川	286	231	▲ 19.2	136	117	▲ 14.0	2.1	2.0
伊香立	2,531	2,507	▲ 0.9	746	818	9.7	3.4	3.1
真野	7,323	7,664	4.7	2,516	2,718	8.0	2.9	2.8
真野北	7,297	6,538	▲ 10.4	2,781	2,689	▲ 3.3	2.6	2.4
堅田	17,716	18,437	4.1	7,135	7,819	9.6	2.5	2.4
仰木	2,298	2,156	▲ 6.2	677	659	▲ 2.7	3.4	3.3
仰木の里	4,562	4,390	▲ 3.8	1,562	1,613	3.3	2.9	2.7
仰木の里東	5,071	5,610	10.6	1,655	1,755	6.0	3.1	3.2
雄琴	7,908	8,079	2.2	3,002	3,131	4.3	2.6	2.6
日吉台	4,007	3,652	▲ 8.9	1,524	1,477	▲ 3.1	2.6	2.5
坂本	10,050	10,022	▲ 0.3	3,661	3,902	6.6	2.7	2.6
下阪本	9,716	10,546	8.5	3,573	3,979	11.4	2.7	2.7
唐崎	16,096	16,205	0.7	6,059	6,340	4.6	2.7	2.6
滋賀	16,493	16,388	▲ 0.6	6,624	6,762	2.1	2.5	2.4
山中比叡平	3,014	2,784	▲ 7.6	1,148	1,136	▲ 1.0	2.6	2.5
藤尾	5,716	5,254	▲ 8.1	2,387	2,327	▲ 2.5	2.4	2.3
長等	13,573	12,671	▲ 6.6	6,019	5,758	▲ 4.3	2.3	2.2
逢坂	8,622	8,785	1.9	3,514	3,677	4.6	2.5	2.4
中央	4,665	5,213	11.7	2,329	2,614	12.2	2.0	2.0
平野	15,814	16,463	4.1	6,269	6,672	6.4	2.5	2.5
膳所	16,005	15,647	▲ 2.2	6,813	6,870	0.8	2.3	2.3
富士見	10,577	10,354	▲ 2.1	3,931	4,019	2.2	2.7	2.6
晴嵐	16,863	17,470	3.6	7,065	7,478	5.8	2.4	2.3
石山	11,968	10,975	▲ 8.3	4,664	4,577	▲ 1.9	2.6	2.4
南郷	9,384	9,560	1.9	3,499	3,666	4.8	2.7	2.6
大石	5,276	5,054	▲ 4.2	1,666	1,710	2.6	3.2	3.0
田上	11,177	10,467	▲ 6.4	3,816	3,839	0.6	2.9	2.7
上田上	2,252	2,082	▲ 7.5	732	705	▲ 3.7	3.1	3.0
青山	9,112	10,411	14.3	2,656	3,104	16.9	3.4	3.4
瀬田	12,885	15,001	16.4	5,164	5,914	14.5	2.5	2.5
瀬田南	15,005	14,642	▲ 2.4	5,705	5,704	▲ 0.0	2.6	2.6
瀬田東	14,766	15,651	6.0	6,183	6,711	8.5	2.4	2.3
瀬田北	17,245	18,239	5.8	7,366	7,842	6.5	2.3	2.3
合計	337,634	340,973	1.0	130,335	136,153	4.5	2.6	2.5

出典：「国勢調査結果」（総務省統計局）より作成（各年 4 月 1 日現在）

（４）行政単位の変遷と地域区分

明治 31 年（1898）10 月 1 日、市制施行時の旧大津市の面積は 1,420ha であった。昭和 7 年（1932）5 月 10 日に滋賀村、同 8 年 4 月 1 日に膳所町、石山町、同 26 年 4 月 1 日に雄琴村、坂本村、下阪本村、大石村、下田上村、同 42 年 4 月 1 日に瀬田町、堅田町、平成 18 年（2006）3 月 20 日に志賀町が合併して、現在の大津市となり、面積は 46,451ha となった（表 2-2、図 2-6）。

大津市都市計画マスタープランでは、大津市域を「北部」「西北部」「中北部」「中部」「中南部」「南部」「東部」の7地域に区分している(図2-7)。これらは、概ね旧町や2・3程度の旧町村をまとめた範囲にあたる。

表 2-2 行政単位の変遷

明治 22 年 (1889)	明治 31 年 (1898)	明治 34 年 (1901)	昭和 2 年 (1927)	昭和 5 年 (1930)	昭和 7 年 (1932)	昭和 8 年 (1933)	昭和 26 年 (1951)	昭和 30 年 (1955)	昭和 42 年 (1967)	平成 18 年 (2006)	
小松村	→	→	→	→	→	→	→	志賀町※	→	大津市	
木戸村	→	→	→	→	→	→	→				
和邇村	→	→	→	→	→	→	→				
葛川村	→	→	→	→	→	→	→	堅田町			
伊香立村	→	→	→	→	→	→	→				
真野村	→	→	→	→	→	→	→				
堅田村	→	堅田町	→	→	→	→	→				
仰木村	→	→	→	→	→	→	→				
雄琴村	→	→	→	→	→	→	→				→
坂本村	→	→	→	→	→	→					
下阪本村	→	→	→	→	→	→					
滋賀村	→	→	→	→	→	→					
大津町	大津市	→	→	→							
膳所村	→	膳所町	→	→	→	→					
石山村	→	→	→	石山町							
大石村	→	→	→	→	→	→		→	→		
下田上村	→	→	→	→	→	→					
上田上村	→	→	→	→	→	→					
瀬田村	→	→	瀬田町	→	→	→	→	瀬田町			

※昭和 31 年（1956）、小松村大字鶴川は志賀町から分離して高島郡高島町に編入される。



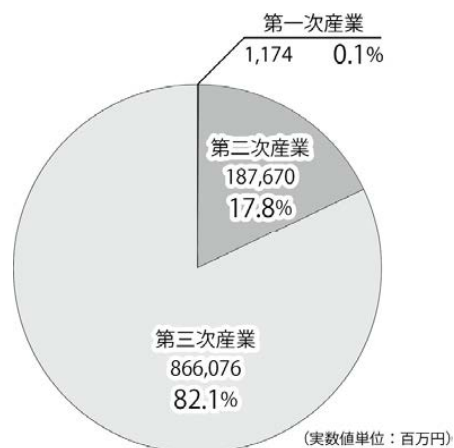
図 2-6 行政単位の変遷図



図 2-7 地域区分（大津市都市計画マスタープラン）

(5) 産業

大津市における平成 27 年度 (2015) の産業別総生産をみると、第 3 次産業が 866,076 百万円で、全体の 82.1% を占めている。その内訳は、不動産業が 126,731 百万円と最も多く、保健衛生・社会事業が 97,934 百万円と続いている。これは、県庁所在地である大津市に、大企業の支店が数多く出店しているためである。一方、建設業や製造業などを含む第 2 次産業は 17.8%、第 1 次産業である農林水産業は 0.1% となっている。こうした第 1 次産業および第 2 次産業の割合が低い理由のひとつとして、市内の宅地化が進み、大阪や京都への通勤者が多くなったことが考えられている (図 2-8)。



出典：滋賀県市町民経済計算より作成

図 2-8 平成 27 年度 産業別総生産

また、産業別の事業所数・従業者数の推移をみると、平成 26 年から平成 28 年にかけて、第 2 次産業の従業者数がやや増加しているほかは、全体的に事業者数・従業者数ともに減少している (表 2-3)。

表 2-3 産業別事業所数・従業者数の推移

	事業所数			従業者数 (人)		
	平成 26 年	平成 28 年	増減率 (%)	平成 26 年	平成 28 年	増減率 (%)
第 1 次産業	24	24	0	243	217	▲ 10.7
第 2 次産業	1,695	1,626	▲ 4.1	20,848	20,918	0.3
第 3 次産業	9,841	9,717	▲ 1.3	95,886	95,302	▲ 0.6
総数	11,560	11,367	▲ 1.7	116,977	116,437	▲ 0.5

注 1) 国及び地方公共団体の事業所を除く事業所の数値である。

注 2) 調査期日は、平成 26 年は 7 月 1 日、平成 28 年は 6 月 1 日。

出典：総務省統計局「平成 26 年経済センサス-基礎調査結果・平成 28 年経済センサス-活動調査結果」

大津市の農業地域は、西北部、北部及び東部・南部に集中しており、北部地域では、比良山系を背に琵琶湖にむかって急傾斜の農地が続いている。西北部・中北部地域では、比叡山と琵琶湖の間にある平野や斜面に農地が分布し、仰木の棚田に代表される傾斜の強い棚田が見られるのもこの地域の特徴である。東部・南部地域では、一部急傾斜の農地もあるが、^{だいがわ}大戸川が流れる平野に優良な農地が広がっている。近隣の草津市や野洲市、高島市に比べて大津市は平坦な農地が少なく、ほ場整備も県内の他の市町に比べるとあまり進んでいない。さらに市の南側と北側で平均気温や年間降水量が異なることも農業に影響を与えている。北部では冬になると「比良おろし」と呼ばれる比良山系からの強い風の影響を受けることがある。

平成 27 年の農林業センサスによると、大津市の農家（経営耕地面積が 10a 以上又は農産物販売金額が 15 万円以上の世帯）は 2,955 戸で、そのうち自給的農家（経営耕地面積 30a 未満かつ農産物販売金額が年間 50 万円未満の農家）が 1,367 戸、販売農家（経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家）が 1,588 戸である。

農業の主力は稲作であり、耕地の面積（経営耕地面積、平成 27 年現在）1,449ha のうち、水田面積は 95% を占め、農産物販売金額（平成 22 年）全体の 58% を占める。次いで、養鶏（農産物販売金額：13%）が盛んである。他にも、都市部に近い立地を活かした小松菜、トマト、キャベツ、青ネギ、ダイコンなど野菜の生産、果物ではイチゴやスイカの生産が行われている。市内では環境保全型農業にも取り組んでおり、県が新しく開発した品種「みずかがみ」をはじめとしたさまざまな米づくりを行っている。

大津市は、京阪神大都市圏への近接性や国土幹線に位置する交通利便性などにより、古くから機械・電気・金属・化学等の内陸工業地域として発展してきた。また、かつては豊かな琵琶湖の軟水や伝統的な麻布づくりを基盤とした繊維・織物工業も盛んであったが、重化学工業の進出に押され、その地位は衰退しつつある。

平成 29 年工業統計調査における製造品出荷額をみると、生産用機械器具製造業、プラスチック製品製造業、窯業・土石製品製造業等の割合が高くなっている（表 2-4）。

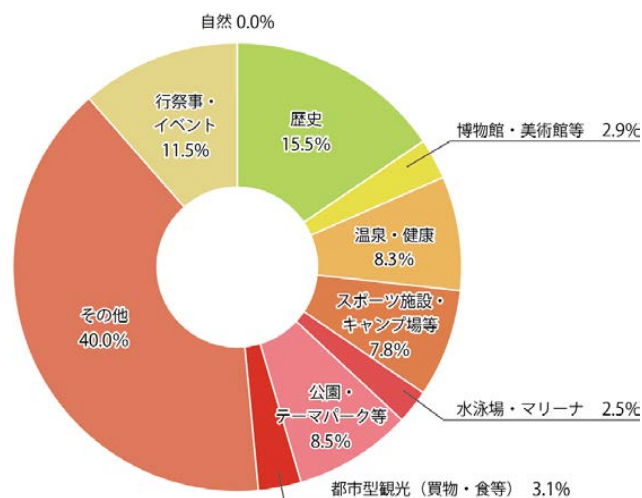
表 2-4 産業(中分類)別事業所数・製造品出荷額

区分	事業所数	製造品出荷額 (万円)	区分	事業所数	製造品出荷額 (万円)
食料品製造業	36	2,476,454	窯業・土石製品製造業	16	4,384,266
飲料・たばこ・飼料製造業	6	235,026	鉄鋼業	1	X
繊維工業	5	964,253	非鉄金属製造業	4	417,487
木材・木製品製造業	3	27,946	金属製品製造業	14	807,925
家具・装備品製造業	7	74,953	はん用機械器具製造業	8	4,371,293
パルプ・紙・紙加工品製造業	10	1,636,998	生産用機械器具製造業	20	6,365,266
印刷・同関連業	11	221,564	業務用機械器具製造業	7	3,054,416
化学工業	3	383,240	電子部品・デバイス製造業	12	3,033,211
石油製品・石炭製品製造業	1	X	電気機械器具製造業	12	1,589,815
プラスチック製品製造業	17	4,740,919	輸送用機械器具製造業	5	150,678
ゴム製品製造業	1	X	その他の製造業	10	156,541
なめし革・同製品・毛皮製造業	1	X	計	210	35,608,250

注)「X」は発表を控えるもの

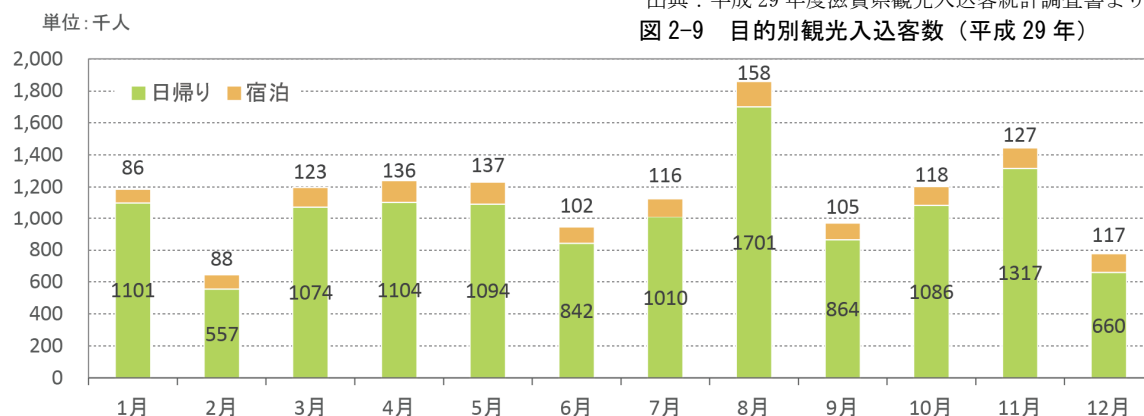
出典：平成 29 年工業統計調査より作成

大津市への観光入込客数は、平成 29 年で 13,821 千人である。目的別にみると、歴史（15.5%）、行祭事・イベント（11.5%）、公園・テーマパーク等（8.5%）などの割合が高い（図 2-9）。来訪した月別にみると、8 月が最も多く、1,859 千人となっている。また日帰り・宿泊別にみると、日帰りの入込客数の割合は年間平均で 89.8%を占めている（図 2-10）。



出典：平成 29 年度滋賀県観光入込客統計調査書より作成

図 2-9 目的別観光入込客数（平成 29 年）



出典：平成 29 年度滋賀県観光入込客統計調査書より作成

図 2-10 月別観光入込客数（平成 29 年）

(6) 交通網

大津市は、地理的には東海道と北国海道（西近江路）^{ほっこくかいどう}の分岐点にあり、琵琶湖の水運も含め、古くから交通の要衝として商業や交易が盛んに営まれた。

主な古道としては、東海道、北国海道、若狭街道、山中越、小関越等が挙げられる。東海道の歴史は古く、7世紀中頃の大化の改新の詔に駅馬・伝馬を設置するとの条文がみえる。逢坂関、瀬田橋は東海道筋の要衝として重視され、鎌倉に幕府が開かれると、東海道は京都と鎌倉を結ぶ幹線道路として重要な位置を占めた。北国海道は、大津から琵琶湖の西岸に沿って越前敦賀へと通じる道で、古来、畿内と北国を結ぶ最短の道として多く利用されてきた。山中越は、滋賀里から志賀峠を越え、山中町を経て、京都の北白川に至る道であり、大津と京都を結ぶ近道として平安時代から利用されてきた。平安時代には「志賀の山越」と呼ばれ「古今和歌集」等多くの和歌集に詠まれる歌枕（名所）のひとつとなった。若狭街道



図 2-11 主な旧街道

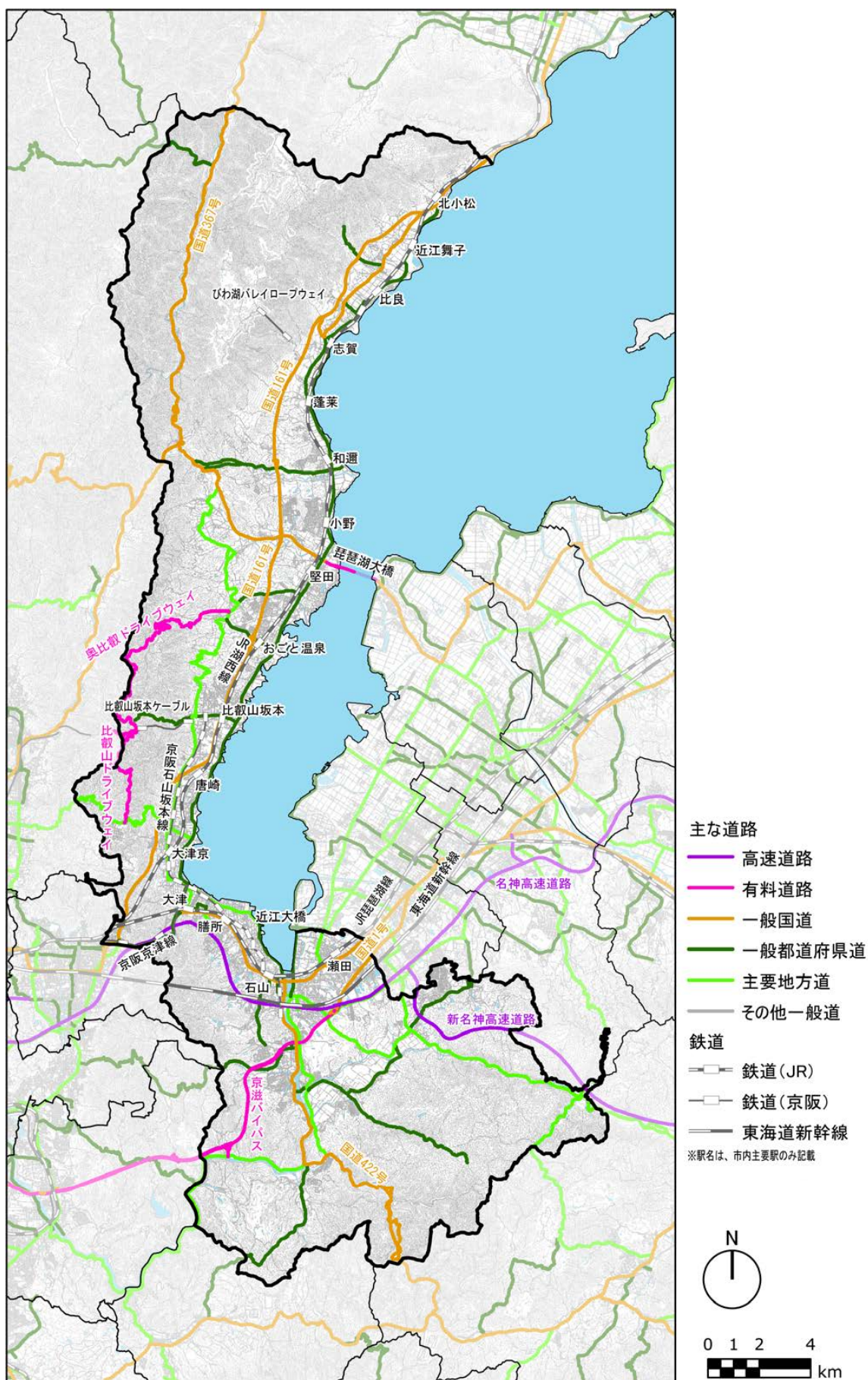
道は、京都と若狭を最短で結び、重要なたんぱく源である塩サバを、若狭の海から京都に運ぶ道であることから近年は「鯖街道」とも呼ばれている。小関越は、長等二丁目付近から小関峠を越え、横木一丁目の旧東海道まで、およそ4kmの道のりであり、古くから京都と大津を結ぶ間道として利用された（図2-11）。

昭和30年代から40年代前半にかけての高度経済成長の過程で、琵琶湖大橋や近江大橋の架橋、名神高速道路の開通など、大津市をとりまく交通網の整備は急速に進められた。現在は、名神高速道路に加え、新名神高速道路が開通し、国道1号など主要な道路軸が南部を貫いている。また、国道161号の混雑対策として整備が進められてきた湖西道路は全区間17.9kmが平成元年（1989）に、西大津バイパスは平成8年に開通している。さらに名神高速道路から繋がる京滋バイパスが昭和63年（1988）に開通した。このような近年の市街化の進展や道路交通ネットワークの変化など著しい道路交通網の変化を背景に、「近江大橋無料化」や「大津湖南幹線」の整備、「志賀バイパス(第2工区)」の供用などが行われてきた。

また鉄道網としては、JR琵琶湖線、JR湖西線、京阪石山坂本線・京津線が整備され、特に平成9年、京阪電車と京都市営地下鉄東西線が乗り入れたことによって、京都三条、醍醐と浜大津がつながり、新たな人の流れが生み出されることになった。

このほか、昭和2年に敷設された比叡山坂本ケーブルをはじめ、昭和33年に開業した比叡山ドライブウェイや平成20年に導入されたびわ湖バレイのロープウェイなど観光振興に寄与する交通網の整備も進められている（図2-12）。

鉄道やバスなどの公共交通は、市民の日常の交通利便性の確保だけでなく、環境負荷の低減や、地域活力の創出等の観点から、これからのまちづくりにとって欠かすことのできないものである。このため、大津市では、「大津市バス&電車乗り換えマップ」を作成し、公共交通を使った主要な公共施設や観光地、病院への行き方が一目でわかるように工夫するなど、交通網と地域の生活や観光行動の支援施策を進めている。



出典：国土数値情報[H26 鉄・高速道路]、背景地図 2007

図 2-12 主要交通網

(7) 法規制等

ア 国土利用計画法

平成 29 年（2017）3 月に策定した「第 5 次大津市国土利用計画」（計画期間：平成 29 年度～令和 10 年度）では、「持続可能なまちの再生」、「自然・歴史・文化遺産の保全、再生及び活用」、「災害への危機管理に対応した安全及び安心の確保」の 3 つの基本理念のもとに、「人口減少社会を見据えたコンパクトな都市形成」、「美しい景観等の自然環境及び歴史・文化遺産の保全、再生及び活用」、「災害からの安全及び安心の確保」、「複合的な施策の推進及び多様な主体による取組」の 4 つの土地利用の基本方針を定めた。そして、市域を自然的地域、都市的地域、湖岸地域及び歴史的地域の 4 つに区分し、それぞれの地域における特性に配慮しつつ、良好な都市環境を創造する観点から、適正かつ合理的、総合的な土地利用を進めることとしている。このうち、歴史的地域は、「神社仏閣、史跡や歴史的なまち並みと周辺の自然環境と都市環境が一体となった地域であり、本市の豊かな歴史を未来に継承する上で重要な地域」とし、「比良山麓の歴史遺産」、「回峰行の聖地葛川」、「湖族の郷堅田」、「延暦寺とその山麓」、「大津京とその関連遺跡」、「三井寺（園城寺）とその門前町」、「大津百町」、「膳所城下町」、「近江国庁」、「石山寺とその周辺」、「瀬田川流域の歴史遺産」という 11 地域を設定している（図 2-13）。

イ 都市計画法

大津市では、行政区域（46,451ha）のうち、葛川地区および琵琶湖水面を除く 32,910ha（市域の 70.9%）が都市計画区域（大津市含む 6 市を対象とした大津湖南都市計画区域の一部に相当）に指定されており、都市計画区域のうち 5,936ha（18.0%、市域の 12.8%）が市街化区域、26,974ha（82.0%、市域の 58.1%）が市街化調整区域に指定されている（図 2-14）。

また地区の特性に合わせて、適正な都市機能と健全な地区環境を将来にわたって確保するための地区計画は、令和元年（2019）6 月現在、市内 36 カ所で策定されている。さらに、良好な都市環境を形成するために、風致地区の指定や高度地区の設定などがなされている（図 2-15）。

ウ 農業振興地域の整備に関する法律

北部の琵琶湖沿岸域、堅田丘陵周辺や、瀬田川支流の^{だいがわ}大戸川等の河川沿いや谷筋を中心に農業振興地域及び農用地区域が指定されている（図 2-16）。

エ 森林法

現況森林面積の 88.1%（25,105ha）が地域森林計画対象民有林であり、国有林は 11.9%（2,987ha）、保安林は 32.1%（8,057ha、注：指定重複しない実面積）となっている（図 2-17）。

オ 自然公園法

「自然公園法」、「滋賀県立自然公園条例」に基づく自然公園として、琵琶湖国定公園、三上・田上・信楽県立自然公園、朽木・葛川県立自然公園の 3 ヶ所が指定されており、湖岸と森林の大部分がこれらに含まれていることから、自然環境を保全しながら活用する取り組みが進められている。

自然環境の活用に寄与する自然歩道として、比叡山、園城寺（三井寺）、石山寺周辺をめぐる「東海自然歩道」や、鯖街道および花折峠^{はなおり}を通る「近畿自然歩道」、浮御堂、西教寺、日吉大社などをめぐる「中部北陸自然歩道」が整備されており、ハイキングなどに活用されている（図 2-18）。

カ 鳥獣保護法

「琵琶湖」、「比良山」、「伊香立」、「近江湖南アルプス」に鳥獣保護区が指定され、生物の多様性を保全している。なお、「近江湖南アルプス」鳥獣保護区は平成 28 年（2016）10 月 31 日をもって、指定期間が満了している（図 2-18）。

キ 古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法

平成 15 年（2003）10 月、大津市は「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）」に基づく「古都」に指定され、比叡山・坂本地区他 4 地区が歴史的風土の保存を目的とした大津市歴史的風土保存区域に指定されている。歴史的風土保存区域では届出制、歴史的風土特別保存地区では許可制により、開発行為等の規制・誘導が図られている（表 2-5、図 2-19）。

表 2-5 歴史的風土保存区域等の指定状況

歴史的風土保存区域				歴史的風土特別保存地区		
区域名	地区名	指定年月日	面積(ha)	地区名	指定年月日	面積(ha)
大津市歴史的風土保存区域	比叡山・坂本	平成 16. 6. 15	1, 557. 0	延暦寺東塔・西塔	平成 18. 6. 7	216. 0
				延暦寺横川	平成 18. 6. 7	74. 0
				延暦寺飯室谷	平成 18. 6. 7	28. 0
				西教寺	平成 18. 6. 7	4. 4
				日吉大社	平成 18. 6. 7	32. 0
	近江大津京跡	平成 16. 6. 15	1, 100. 0	崇福寺跡	平成 18. 6. 7	12. 0
				近江神宮	平成 18. 6. 7	9. 3
	園城寺	平成 16. 6. 15	563. 0	園城寺	平成 18. 6. 7	25. 0
	音羽山	平成 16. 6. 15	1, 173. 0	—	—	—
	石山寺	平成 16. 6. 15	164. 0	石山寺	平成 18. 6. 7	105. 0
計	地区数：5		4, 557. 0	地区数：9		505. 7

出典：大津市歴史的風土保存計画より作成

ク 景観法

景観法に基づく景観計画区域は、琵琶湖の区域を除く市内全域に設定されており、景観計画区域をさらに細かく、用途地域などに関連づけた景観区に区分し、これらの区分に対応した細やかな方針や景観形成の基準を定め、建築行為や開発行為等に対する景観誘導を行っている（表 2-6、図 2-20）。

表 2-6 景観区の区分と定義

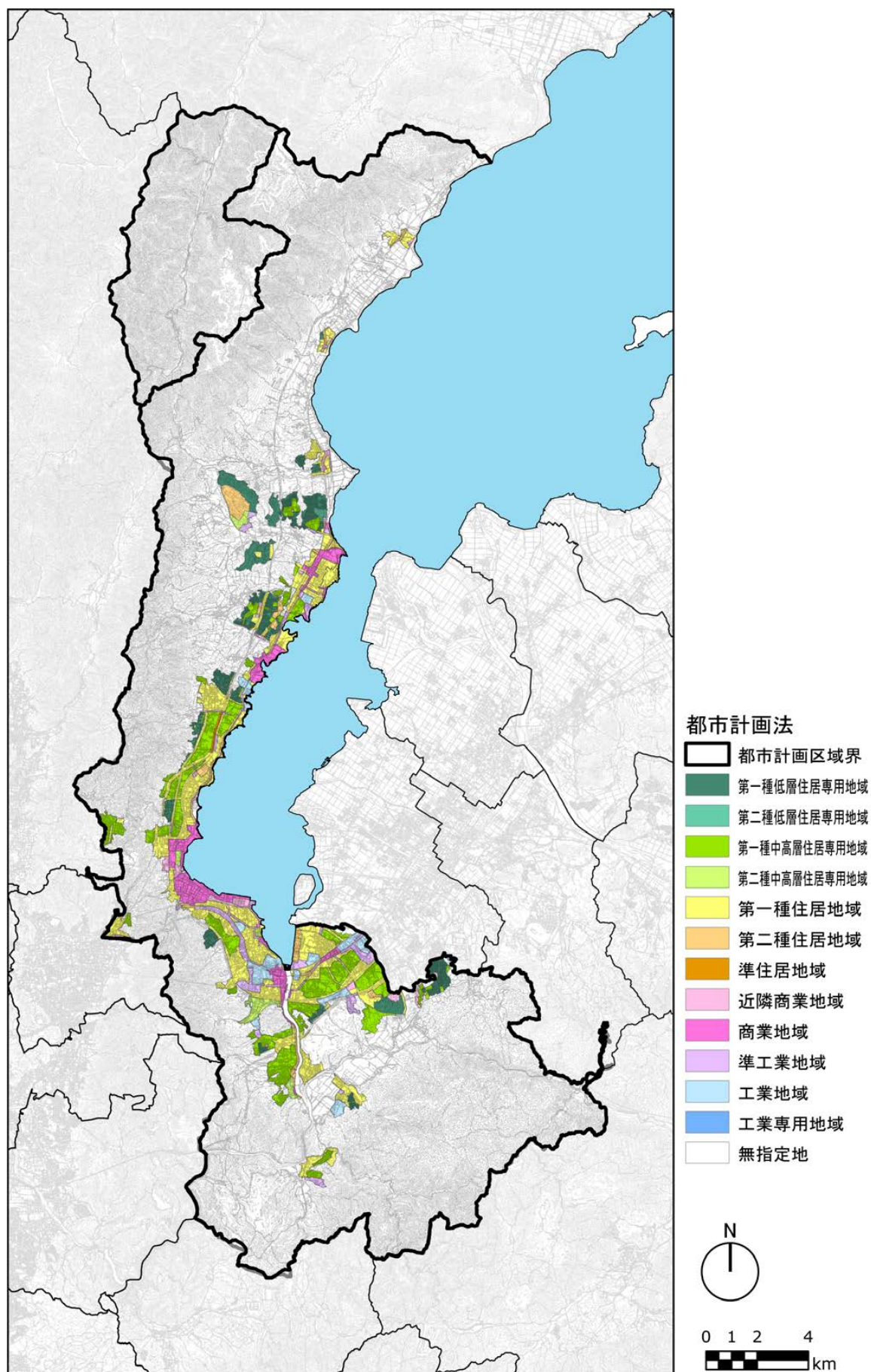
区名	定義
緑地景観区	市街化調整区域、都市計画区域外
低層住宅地景観区	第 1 種低層住居専用地域、第 2 種低層住居専用地域
中高層住宅地景観区	第 1 種中高層住居専用地域、第 2 種中高層住居専用地域
一般市街地景観区	第 1 種住居地域
沿道市街地景観区	第 2 種住居地域、準住居地域、準工業地域（幹線道路沿道のみ）
近隣商業地景観区	近隣商業地域
商業地景観区	商業地域
準工業地景観区	準工業地域（幹線道路沿道を除く）
工業地景観区	工業地域、工業専用地域
市街地水辺景観区、集落水辺景観区、砂浜樹林景観区、山岳水辺景観区、ヨシ原樹林景観区、河畔林景観区	「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」に定める琵琶湖景観形成地域（市街地湖岸景観、集落湖岸景観、砂浜樹林景観、山岳湖岸景観、ヨシ原樹林景観、河畔林景観）
水辺景観特別地区	「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」に定める琵琶湖景観形成特別地区
都市河川沿岸景観区	都市河川岸の境界から 15m までの区域
自然河川沿岸景観区	自然河川岸の境界から 15m までの区域

出典：大津市景観計画



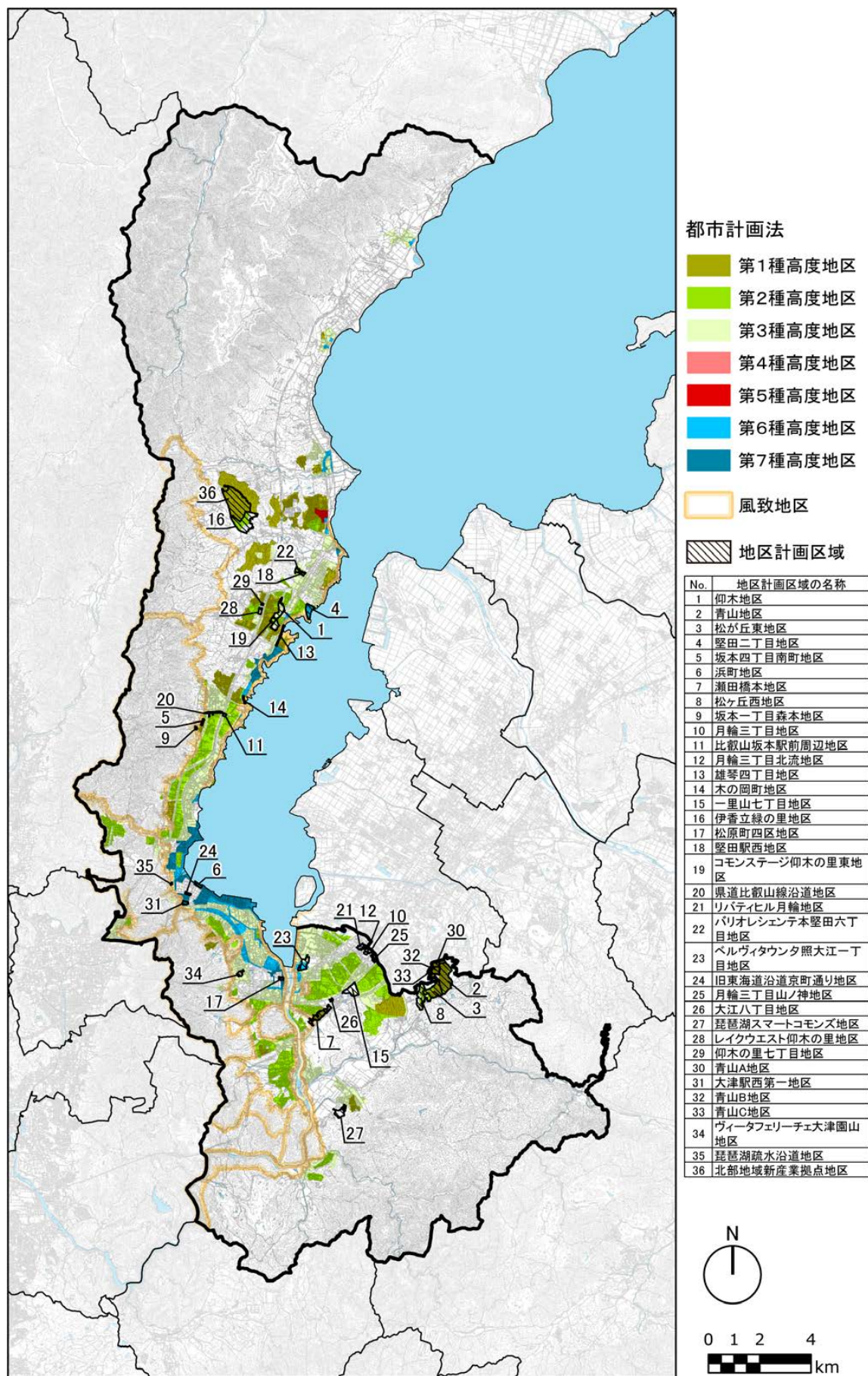
出典：第5次大津市国土利用計画

図 2-13 第5次大津市国土利用計画 土地利用図 (地域類型別)



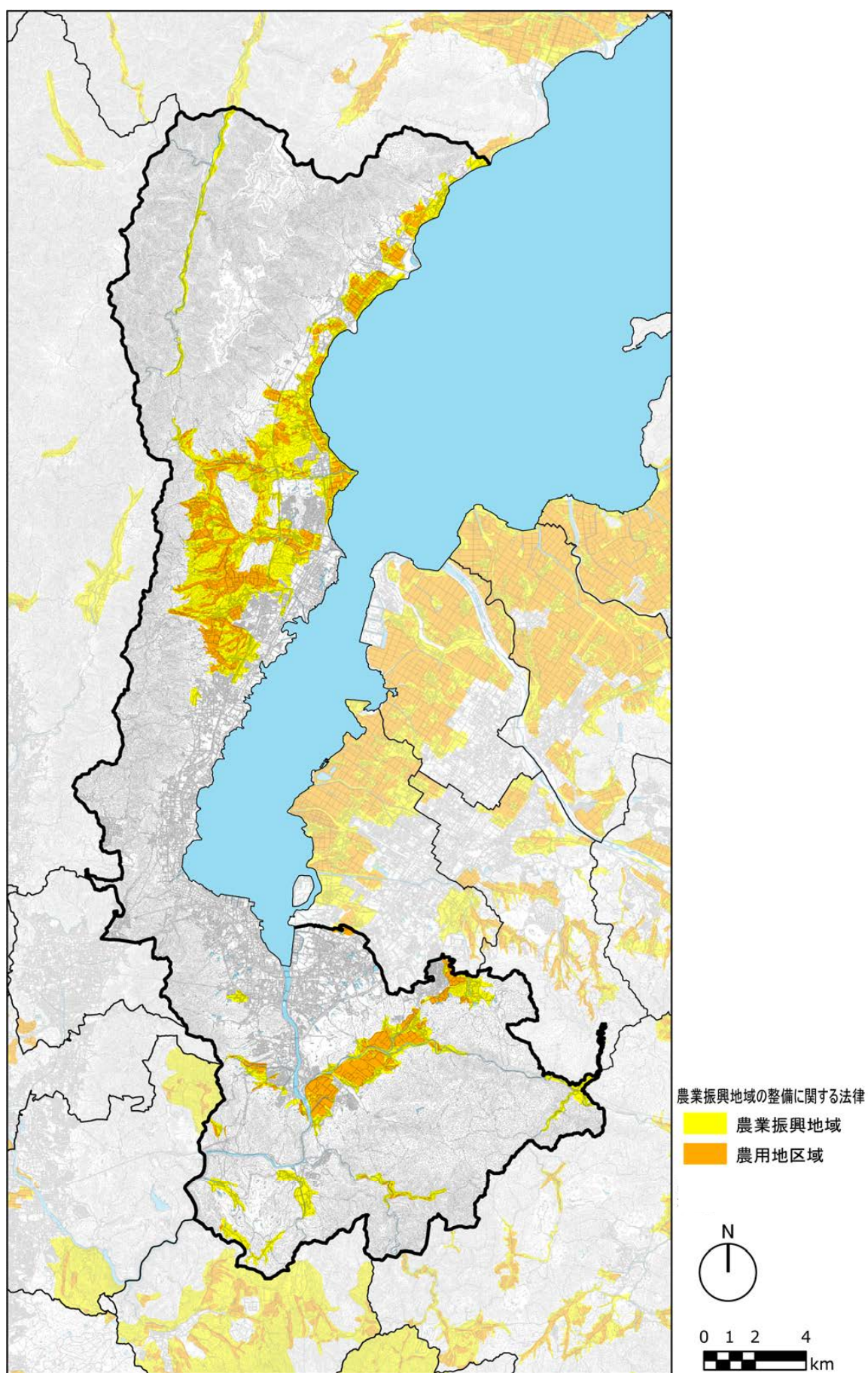
出典：都市計画のあらまし 2018 大津

図 2-14 都市計画法（都市計画区域／市街化区域・市街化調整区域／用途地域）



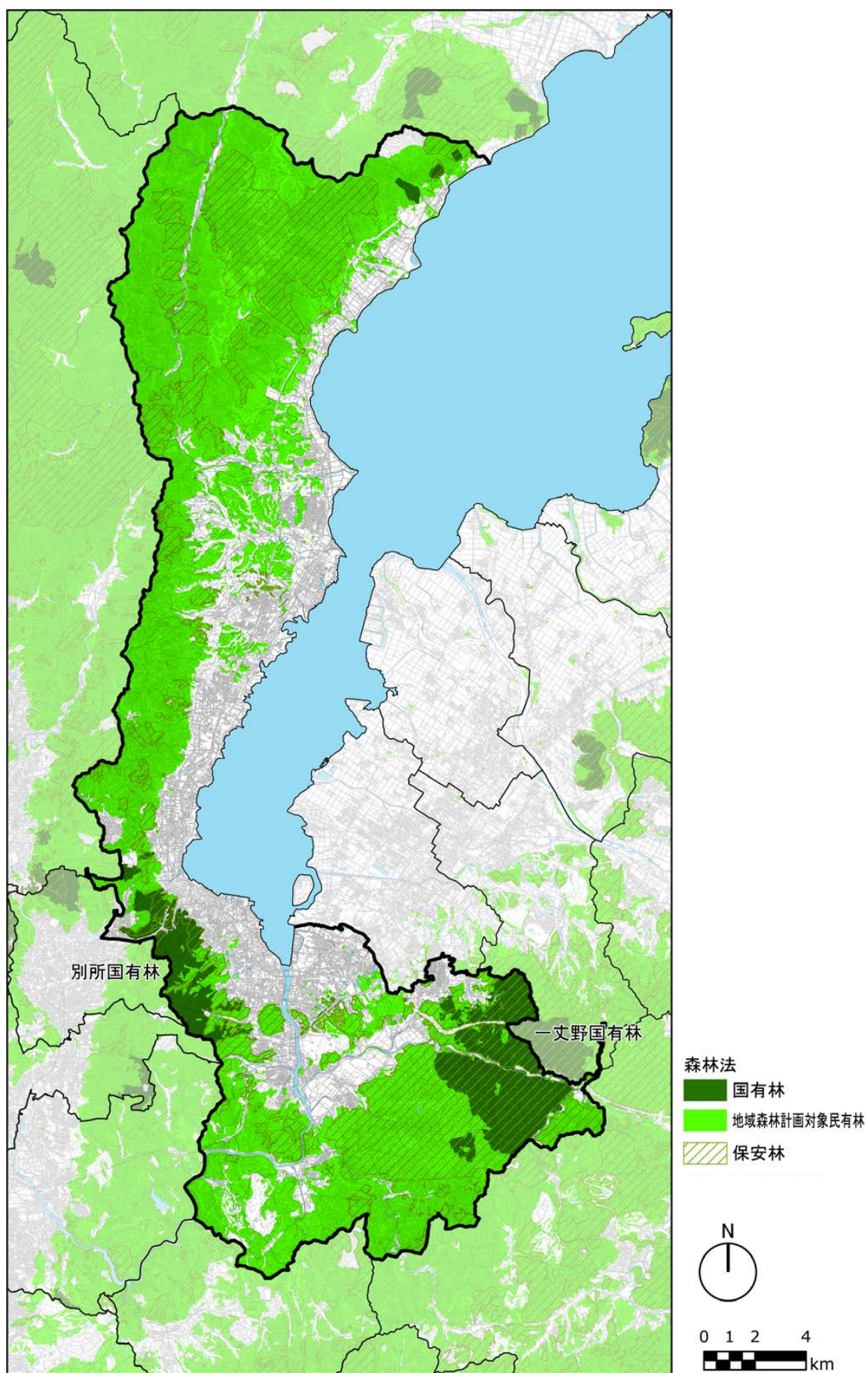
出典：都市計画のあらまし 2018 大津

図 2-15 都市計画法（風致地区・高度地区・地区計画）



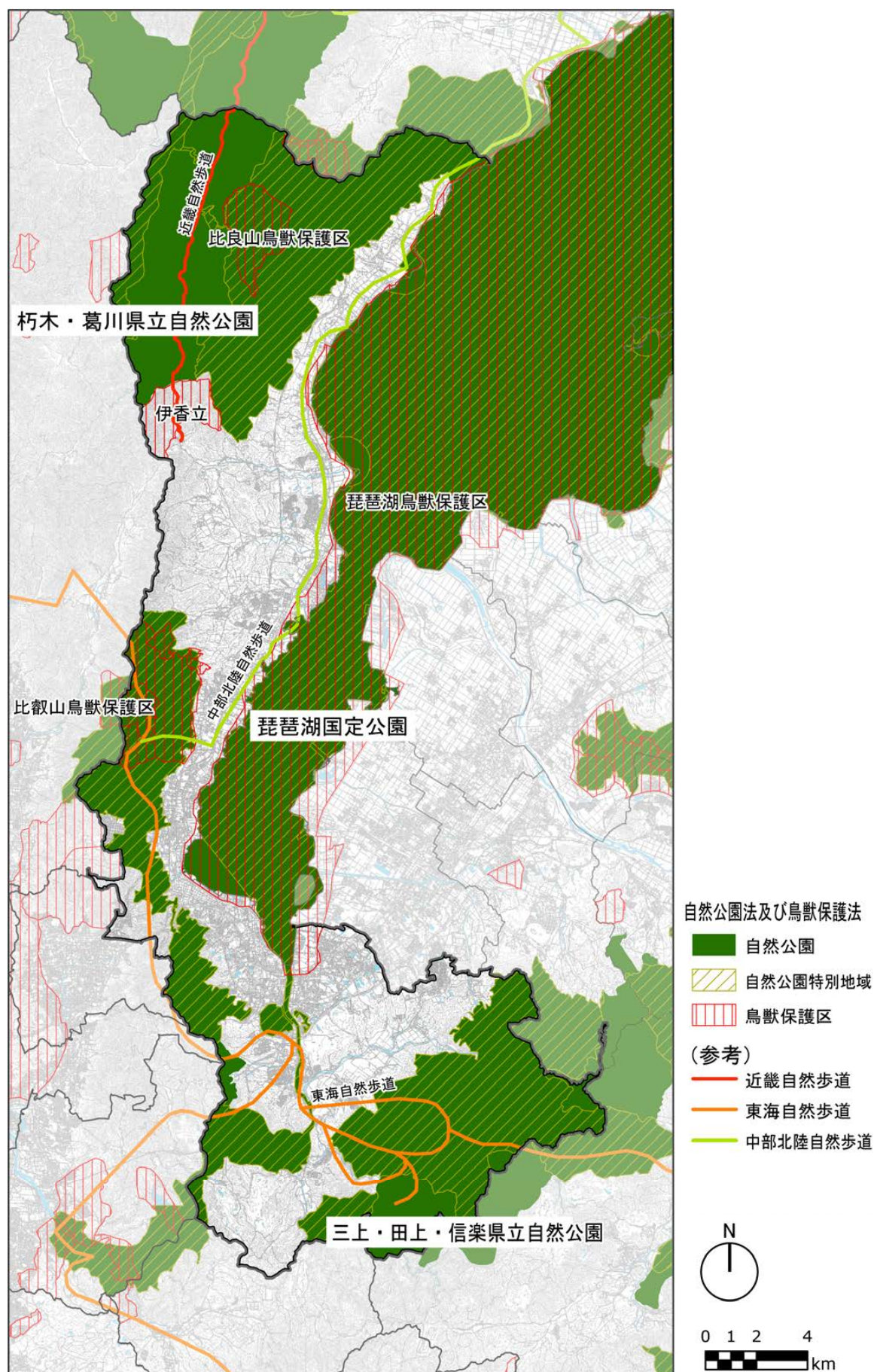
出典：国土数値情報[H27 農業地域]

図 2-16 農業振興地域の整備に関する法律（農業振興地域／農用地区域）



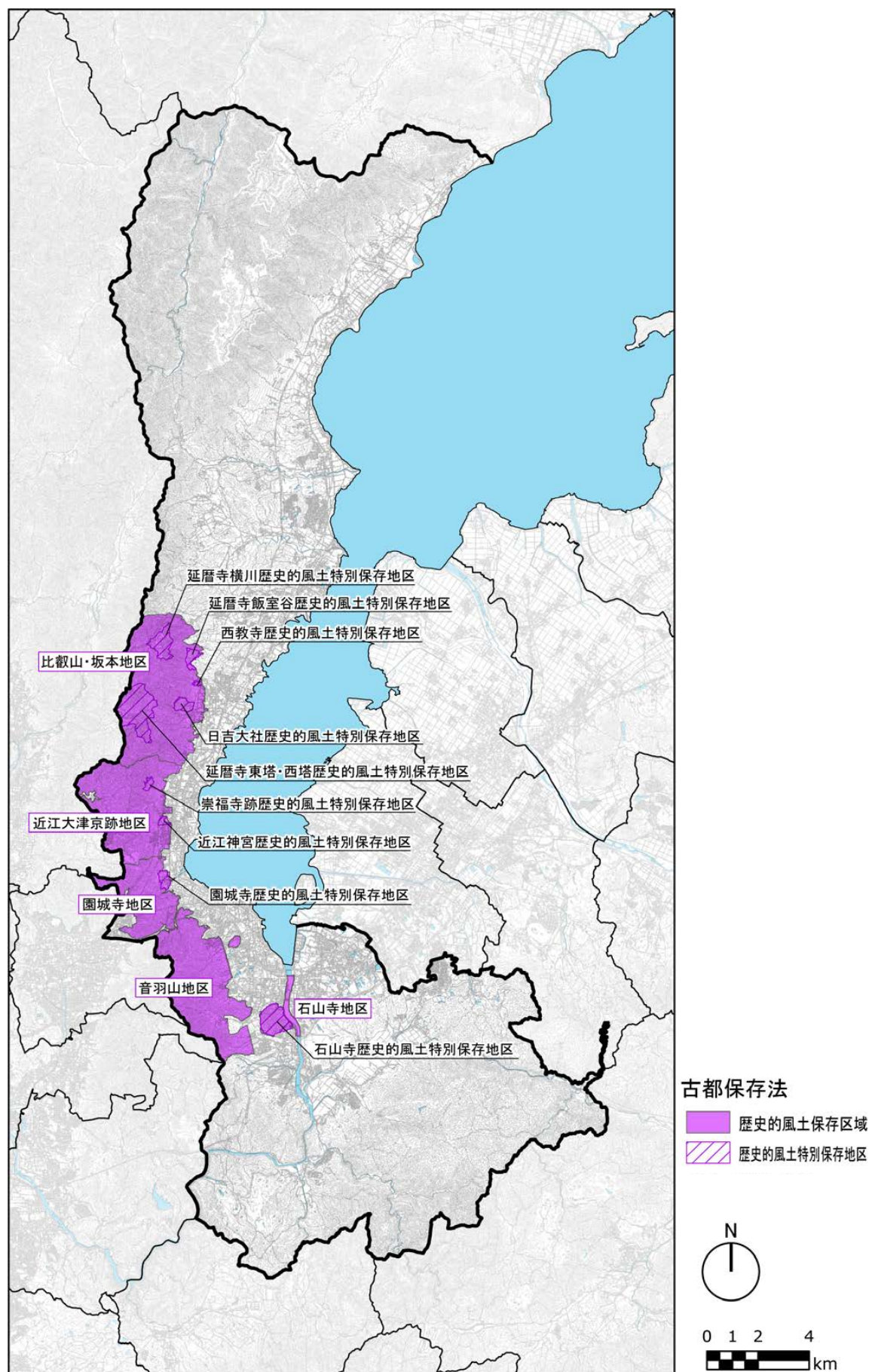
出典：国土数値情報[H27 森林地域]

図 2-17 森林法（国有林／地域森林計画対象民有林／保安林）



出典：国土数値情報[H27 自然公園地域][H27 鳥獣保護区]、関西広域自然歩道マップ（関西広域連携協議会）

図 2-18 自然公園法（国定公園／滋賀県立自然公園／自然歩道）及び鳥獣保護法（鳥獣保護区）



「大津市歴史的風土保存計画」より作成

図 2-19 古都保存法（歴史的風土保存区域、歴史的風土特別保存地区）

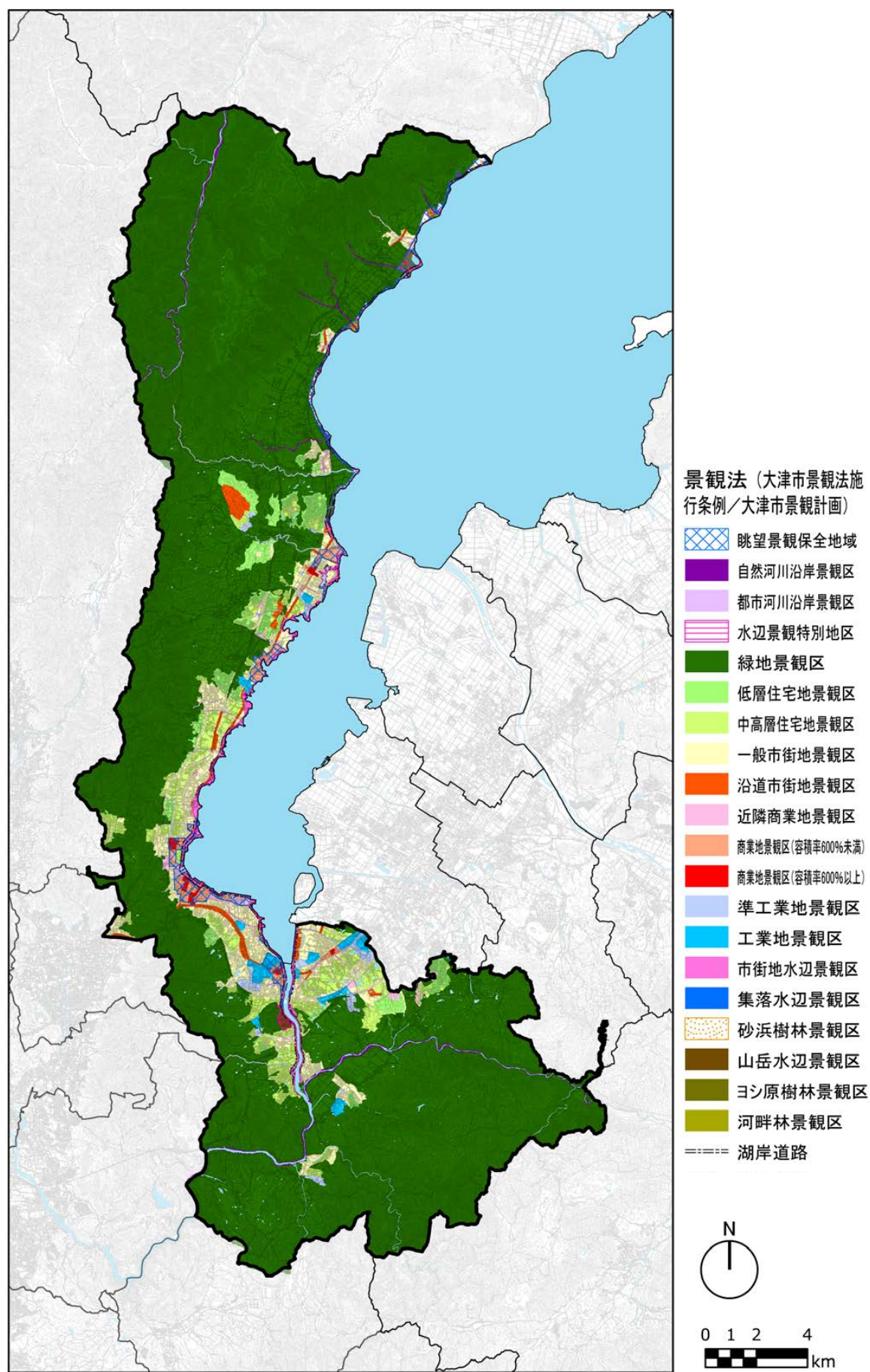


図 2-20 景観法（大津市景観計画による景観区区分図）

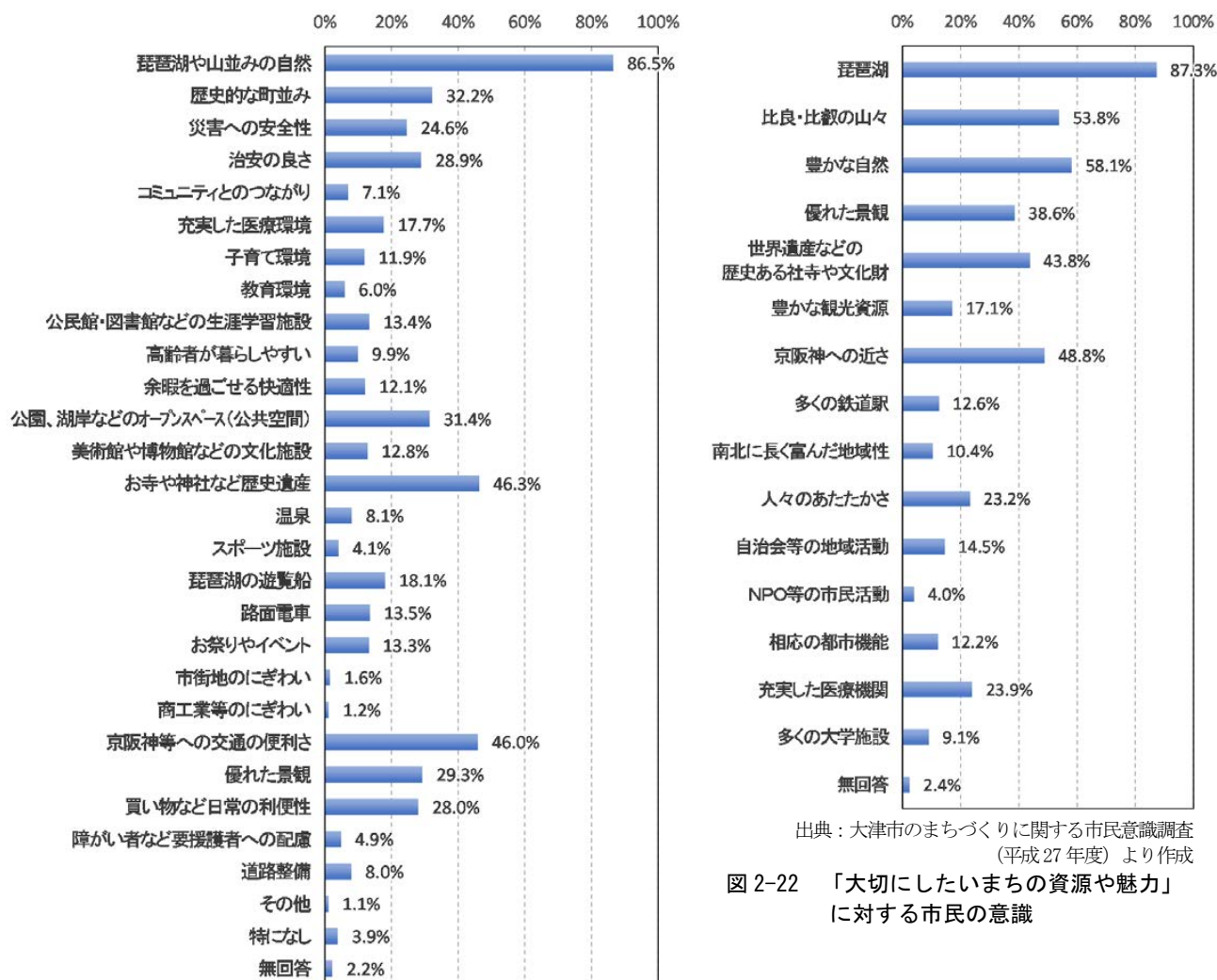
(8) まちづくりに関する市民の意識

「大津市のまちづくりに関する市民意識調査¹」の結果をみると、大津市での暮らしについて、74.2%が「満足」と回答しており、今後の定住意向について85.8%が「大津市に住みたい」と回答している。

「大津市というまちに誇りを感じることを問う設問では、「琵琶湖や山並みの自然」(86.5%)が突出して最も高く、次いで「お寺や神社など歴史遺産」(46.3%)、「京阪神等への交通の便利さ」(46.0%)が4割台、「歴史的な町並み」(32.2%)、「公園、湖岸などのオープンスペース(公共空間)」(31.4%)が3割台、「優れた景観」(29.3%)、「治安の良さ」(28.9%)、「買い物など日常の利便性」(28.0%)、「災害への安全性」(24.6%)が2割台であった(図2-21)。

「大切にしたいまちの資源や魅力」を問う設問では、「琵琶湖」(87.3%)が突出して高く、次いで「豊かな自然」(58.1%)、「比良・比叡の山々」(53.8%)が5割台、「京阪神への近さ」(48.8%)、「世界遺産などの歴史ある社寺や文化財」(43.8%)が4割台、「優れた景観」(38.6%)が3割台であった(図2-22)。

このように、多くの大津市民が、大津市の歴史や文化、自然を誇りと感じ、まちの資源や魅力として大切に守っていききたいという思いを持っていることが分かる。



出典：大津市のまちづくりに関する市民意識調査
(平成27年度)より作成

図 2-22 「大切にしたいまちの資源や魅力」に対する市民の意識

出典：大津市のまちづくりに関する市民意識調査(平成27年度)より作成

図 2-21 「大津市というまちに誇りを感じることを問う設問」に対する市民の意識

¹ 大津市に居住する18歳以上の男女、3,000人を対象に、平成27年12月11日から12月28日まで実施。有効回収数は、1,388件(全回収数から白紙回答を除いた数)、有効回収率46.3%。

2-2 自然環境

(1) 地形・地質

地形を見ると、北部・西北部地域には、武奈ヶ岳^{ぶながたけ}（標高 1,214m）や蓬萊山^{ほうらいさん}（標高 1,173m）を有する比良山地、鎌倉山（標高 951m）、皆子山^{みなごやま}（標高 971m）を有する朽木山地がある。比良山地の西を直線的に南北走する長大な断層線は花折断層^{はなおれ}と呼ばれている。若狭街道の花折峠より北は、この花折断層に従って直線的に北流する安曇川の谷であり、兩岸の山腹は険しく全体として深いV字をなす。花折峠以南は、和邇川、真野川、雄琴川等大小の諸河川が、それぞれ独立の水系をなして琵琶湖に注ぐ。また比良山地の南側には、古琵琶湖層群からなる堅田丘陵と、それを刻む浅く広い谷が見られる。

中北部・中部地域には、比叡山（標高 848m）を有する比叡山地があり、湖岸から内陸に向かって、三角州性低地、扇状地性低地、小起伏丘陵地、山地と層状に連なっている。

中南部・南部・東部地域では、琵琶湖から流れ出る唯一の川、瀬田川が宇治、淀に向けて流れている。琵琶湖が瀬田川へと姿をかえる周辺には三角州性低地が広がり、その南に砂礫台地、小起伏丘陵地がほぼV字型に分布している。瀬田川の南東には、太神山^{たなかみやま}（標高 599m）を主峰とする山々が連なる田上山地がそびえて信楽高原の西端をなし、湖南アルプスとも呼ばれている（図 2-23、図 2-24）。

次いで表層地質を見ると、山地部分のほとんどが砂質粘板岩であるが、比良山地、比叡山地、膳所・石山丘陵、田上山地（信楽高原）等に花崗岩が見られることが特徴的である。比叡山地周辺は、もともと古生代・中生代のチャートや砂岩・頁岩からなっていたが、白亜紀に至って花崗岩が深部から突き上げてきた結果、花崗岩に接していた古生層・中世層はホルンフェルスと呼ばれる固い変成岩と化し、浸食によく耐え相対的に高い位置を保ち続けることができた。これが比叡山と如意ヶ岳^{にょいがたけ}（京都市左京区）である。一方、花崗岩は浸食を受けやすいため、比叡山と如意ヶ岳の間には砂場に近い状態まで風化の進んだ個所も見られる。また堅田丘陵一帯には、古琵琶湖層群の粘土や礫が見られる（図 2-25）。

土壌区分を見ると、山地の大部分に褐色森林土壌が分布しているが、北部地域や東部・南部地域の信楽高原周辺に粗粒残積性未熟土壌が見られること、堅田丘陵周辺に黄色土壌や乾性ポドゾル化土壌が見られることが特徴的である（図 2-26）。

また、自然環境保全上重要な要素である自然景観について環境省が実施した第3回自然景観資源調査では、山地（非火山性）7件、河川景観5件、湖沼景観5件が選定されている（表 2-7）。

表 2-7 自然景観資源 一覧

類型	名称	類型	名称
山地（非火山性）	比良断層	河川景観（続き）	神爾の滝
	花折断層		八淵滝
	皆子山		こめかし岩
	如意ヶ岳	湖沼景観	琵琶湖
	比叡山		雄松内湖
	伽藍山		長池
	太神山		小女郎ヶ池
河川景観	夫婦滝		八雲ヶ原
	三の滝		

計 17 件

出典：環境省「第3回自然景観資源調査」より作成

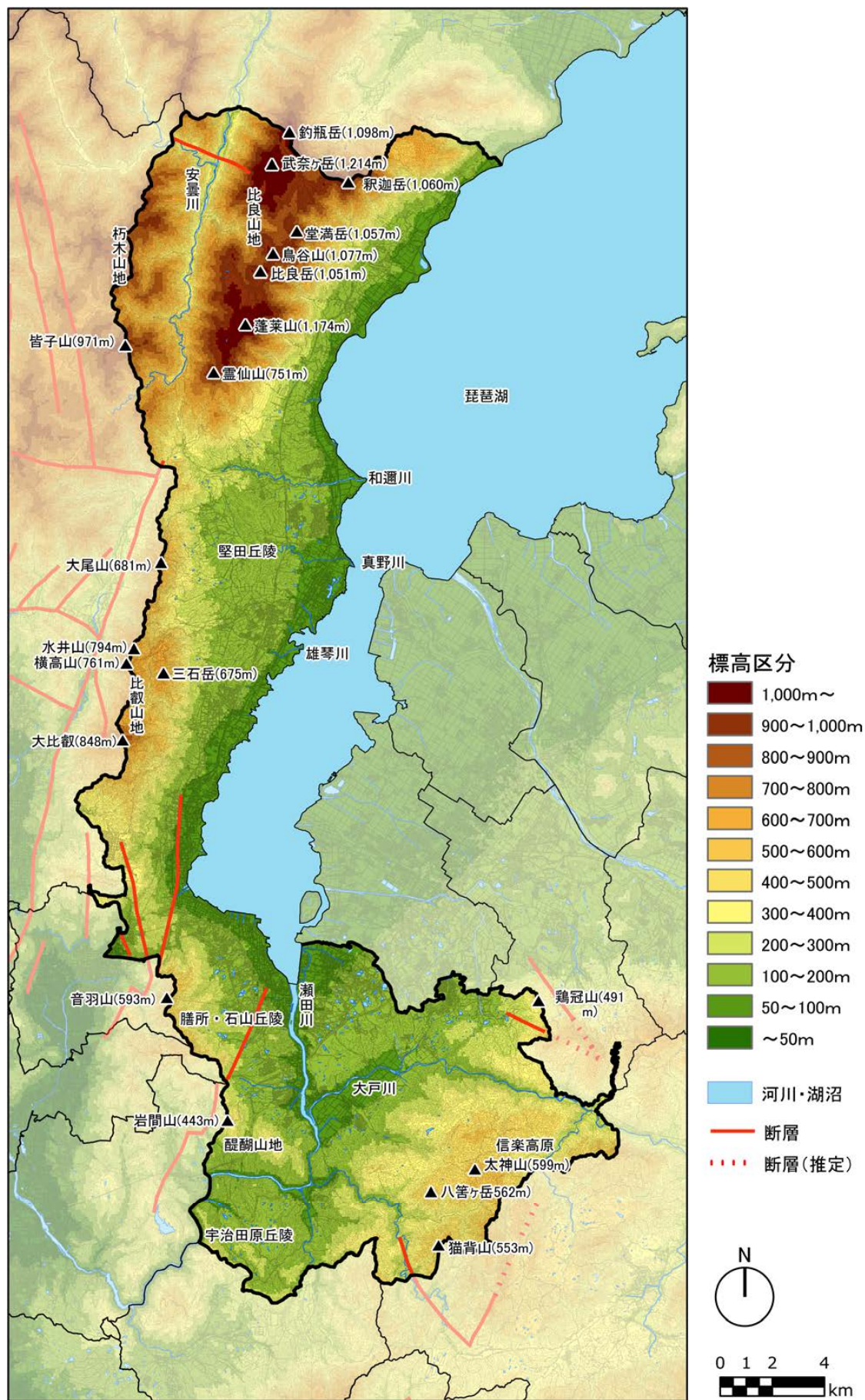
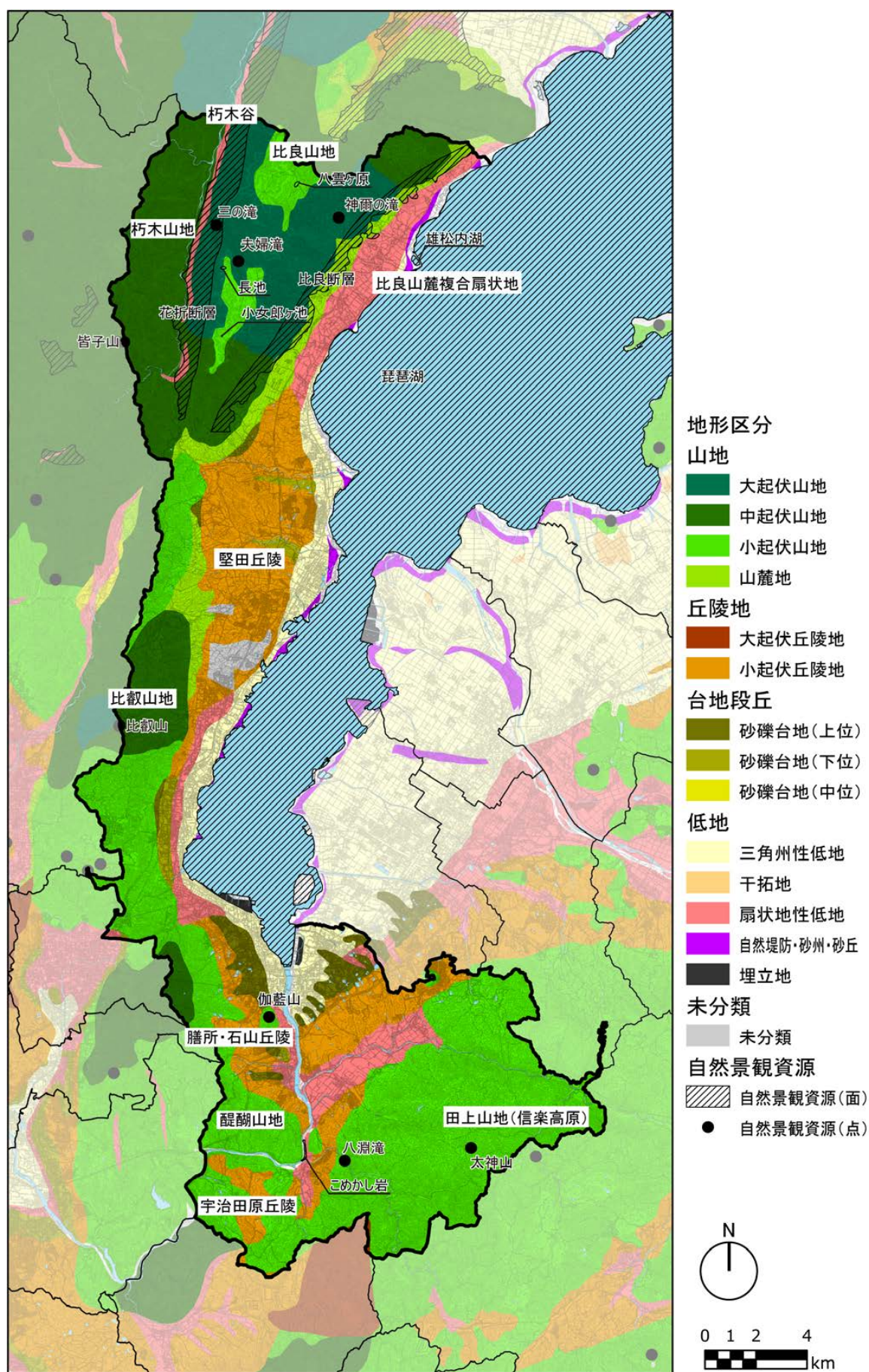


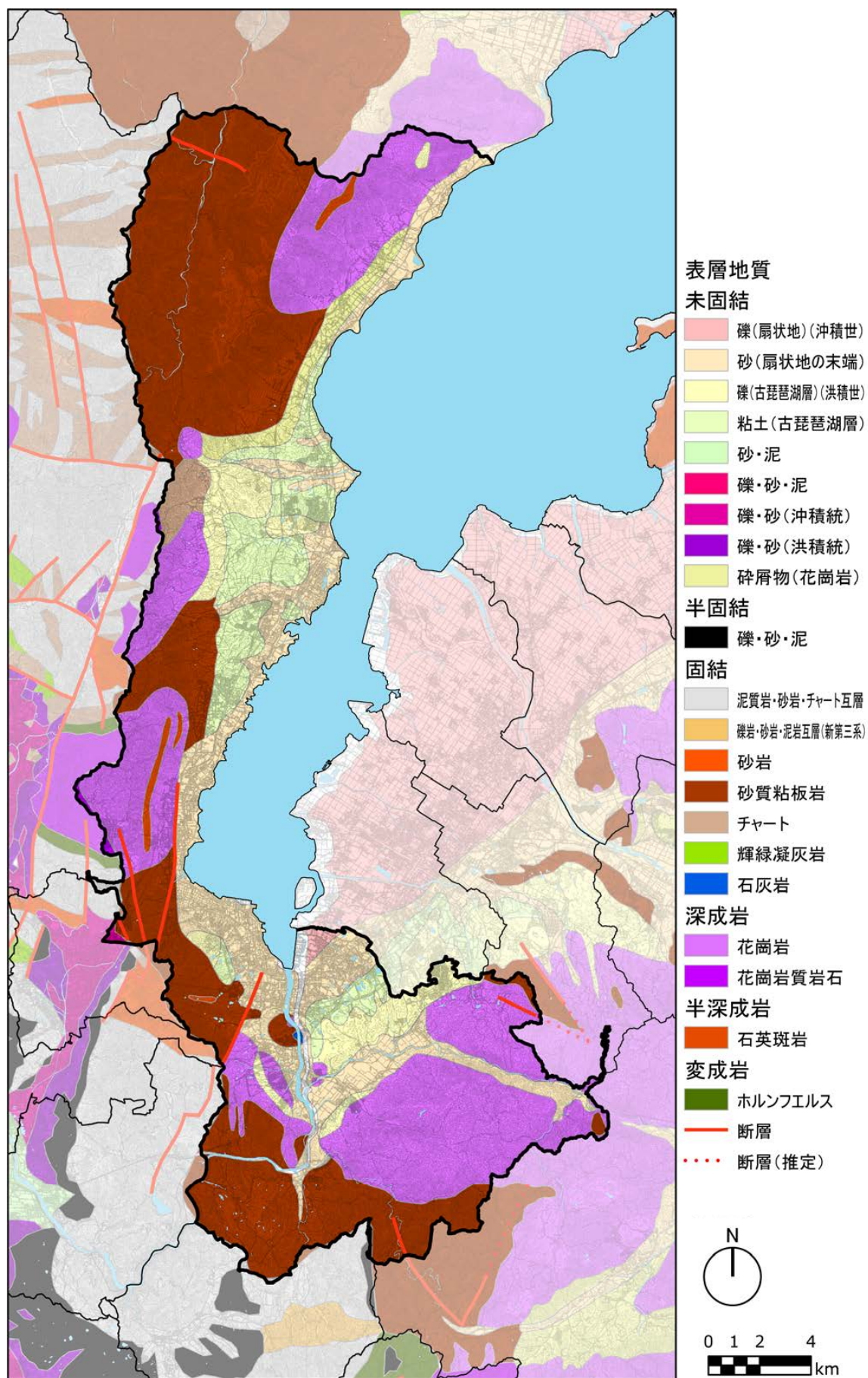
図 2-23 地勢（標高区分図）

出典：「大津市の環境」、SRTM



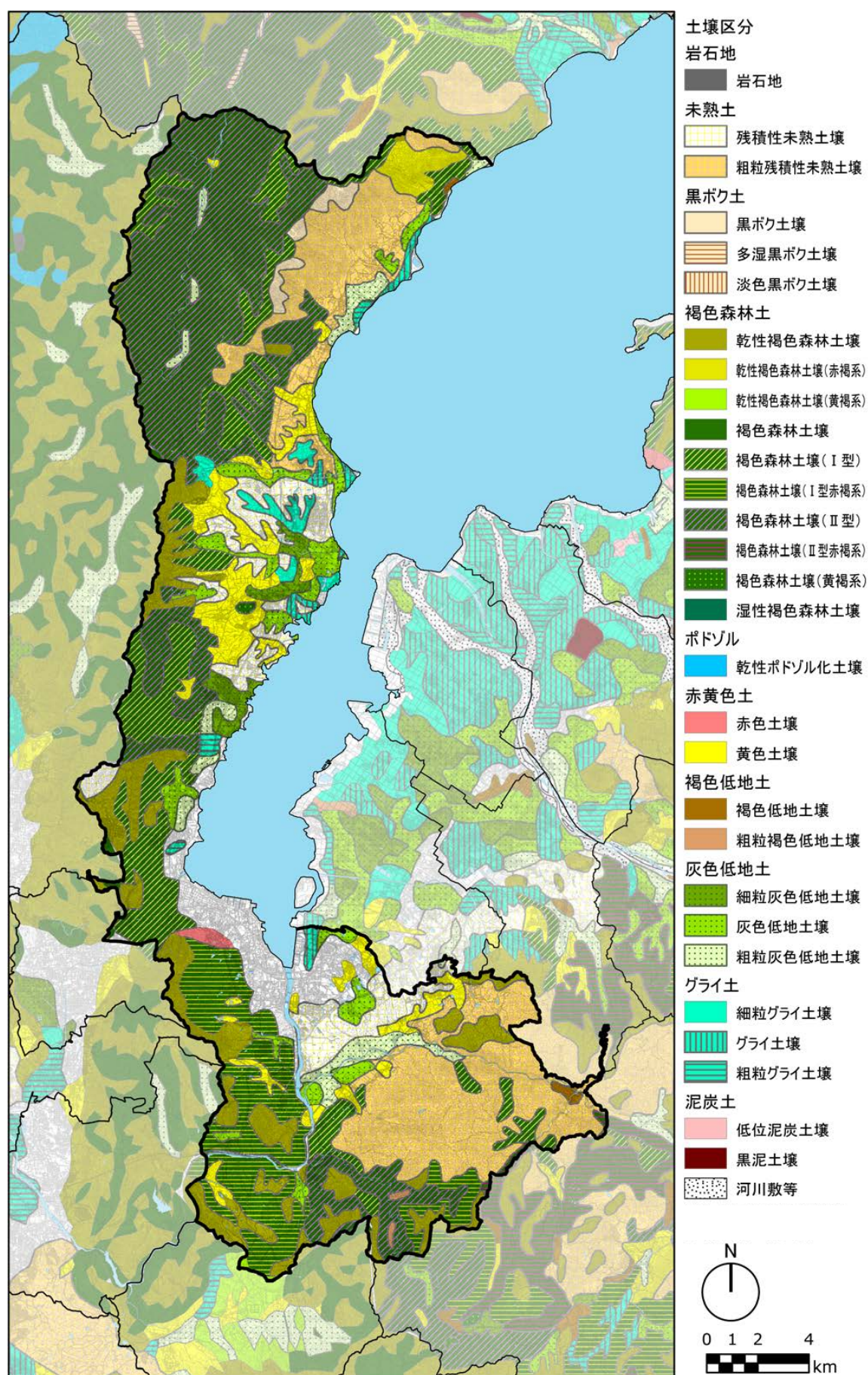
出典：20 万分の 1 土地分類基本調査[地形区分]、自然環境保全基礎調査[第 3 回自然景観資源調査]

図 2-24 地形区分と自然景観資源の分布



出典：20 万分の 1 土地分類基本調査[表層地質]

図 2-25 表層地質

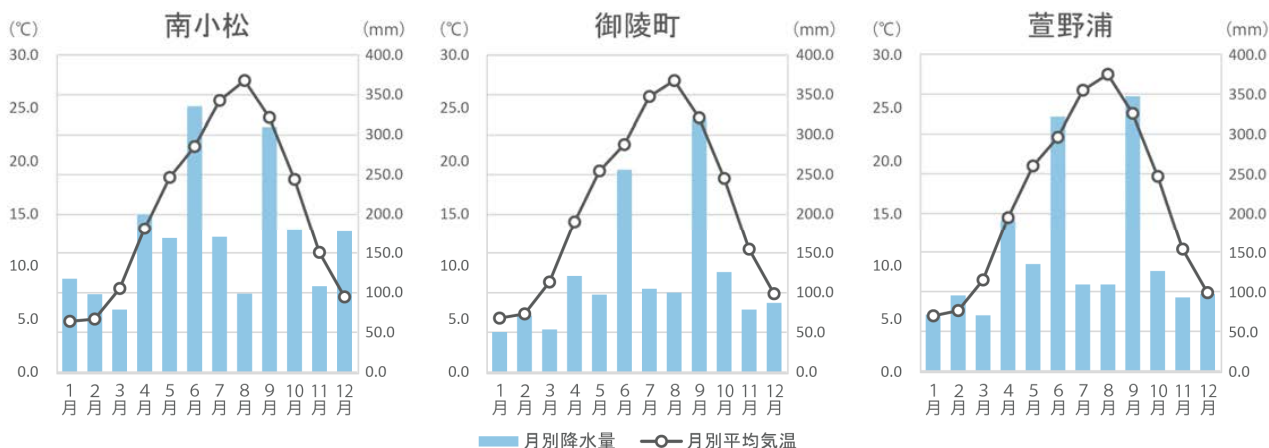


出典：20 万分の 1 土地分類基本調査[土壌区分]

図 2-26 土壌分類

(2) 気候

大津市の気候は、温暖湿潤気候であり、夏は暑く冬は寒い、琵琶湖のおかげで、一日の気温の変化や年間の気温の変化は比較的小さいと言われている。市域が南北に長い、平均気温や年間降水量に地域差がある。例えば、平成 28 年（2016）の平均気温を見ると、南小松 15.4℃、御陵町 15.8℃、萱野浦 16.0℃であり、年間降水量は、南小松 2,043mm、御陵町 1,465mm、萱野浦 1,763.5mm となっている（図 2-27）。



出典：おおつデータブック

図 2-27 月別平均気温・降水量（平成 28 年）

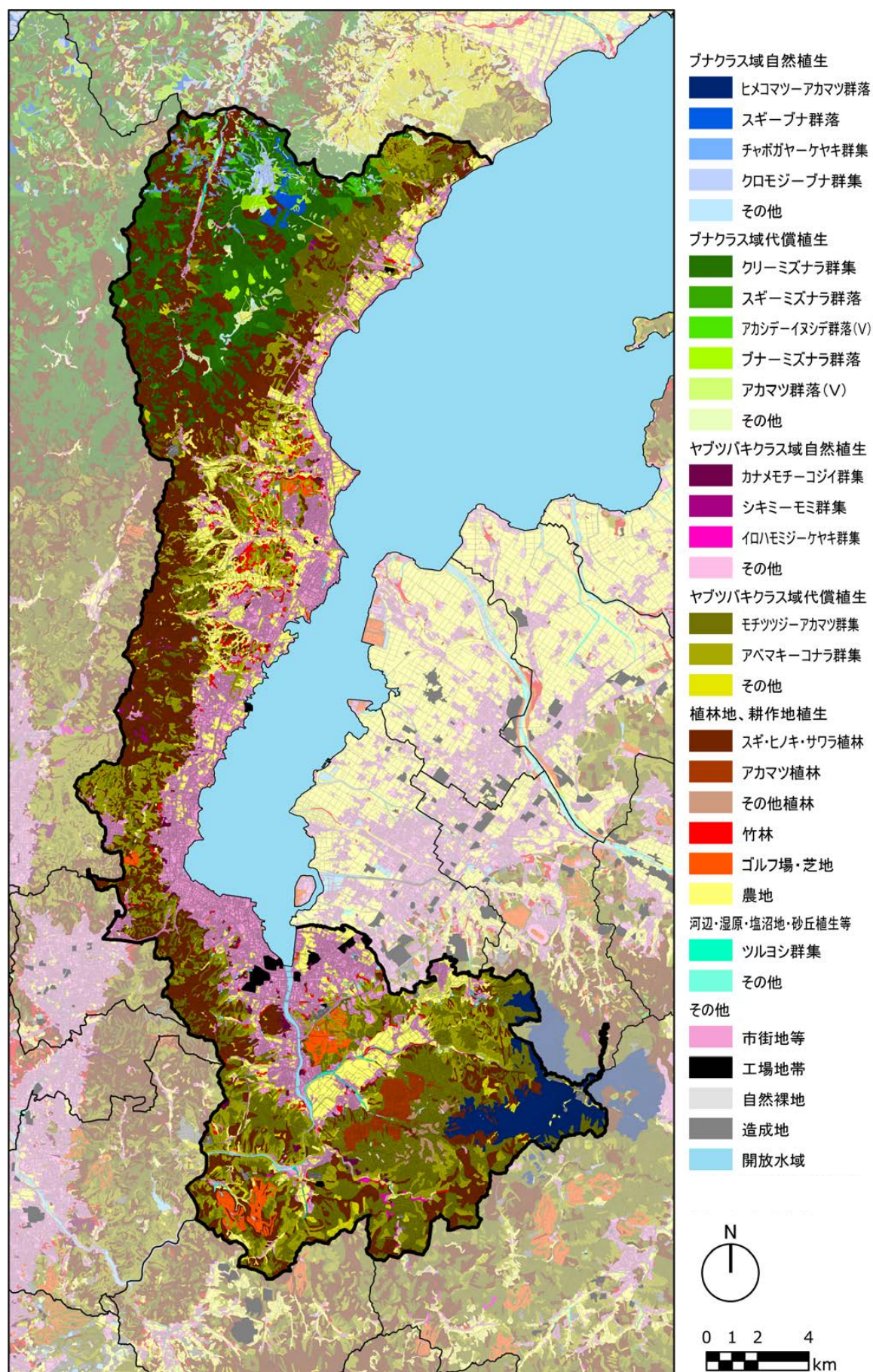
(3) 動植物

ア 自然林

環境省による植生調査（第 6・7 回自然環境保全基礎調査）によると、大津市の自然林は、ヒメコマツ・アカマツ群落、スギ・ブナ群落、カナメモチ・コジイ群集である。ヒメコマツ・アカマツ群落は、山地の岩角地、急傾斜地等に形成される常緑針葉樹林であり、アカマツが優占し、ヒメコマツが混生する森林で南部・東部地域の田上山地に分布する。スギ・ブナ群落は、岩角地、湿生貧養地等に成立する自然生のスギを含む針広混交林であり、常緑針葉樹のスギが優占し、クロベ、キタゴヨウ、モミの他、落葉広葉樹のブナが混生し、比良山地の武奈ヶ岳^{ぶながたけ}周辺に分布する。カナメモチ・コジイ群集は、花崗岩基盤地を主とする乾性立地に成立する常緑広葉樹林であり、コジイが優占し、カナメモチ、ナナメノキ等によって区分され、瀬田川中流から下流にかけての平坦部に分布が見られる。北部・西北部地域では、比良山地の谷間や古琵琶湖層群からなる丘陵部南部の湿原ではヤチスギランやイワショウブなどの氷河期の依存種などの貴重種が見られることが特筆される（図 2-28）。

イ 二次林

二次林としては、モチツツジ・アカマツ群集や、アベマキ・コナラ群集、クレーミズナラ群集等が広く分布する。モチツツジ・アカマツ群集は、低地の乾性立地に成立する常緑針葉樹二次林、花崗岩地等の乾性で貧養な立地に見られる。アカマツが優占し、低木層にモチツツジが出現する。アベマキ・コナラ群集は、内陸部の乾燥立地に成立する落葉広葉樹林であり、土壌条件が比較的良い地点ではアベマキが優占し、尾根近くや急な斜面ではコナラが優占する。モチツツジ・アカマツ群集、アベマキ・コナラ群集は、湖西の堅田丘陵や南部地域の丘陵地帯に広く分布する。クレーミズナラ群集は、ミズナラが優占し、クリ、コハウチワカエデ、イヌシデが混生する落葉広葉樹の二次林であり、朽木山地や比良山地など北部に分布する。その他、植林地として、スギ・ヒノキ群落^{だいでがわ}が比良山地の山裾や比叡山周辺に分布している。また田上の大戸川周辺には、アカマツの植林が見られる（図 2-28）。



出典：自然環境保全基礎調査[第6・7回植生調査]

図 2-28 植生区分

ウ 特定植物群落、巨樹・巨木林等

大津市内では、特定植物群落として「比良山のブナ林」、「北比良のアシウスギ」等の森林植生や、「南比良のハマヒルガオ群落」等海浜植生などの32件が選定されている（表2-8）。

また巨樹・巨木林として「根本中堂のスギ」^{よかわ}「横川中堂のスギ」「南浜のアカマツ」等、21件が報告されている。樹種別にみると、スギが5件、ケヤキ4件、クスノキ及びツブラジイが3件となっている（図2-29、表2-9）。

表2-8 特定植物群落 一覧

名称	選定理由	相観区
比良小女郎峠のツツジ科低木	B	冷温帯夏緑広葉低木
八丁平のクリーミズナラ林	A	冷温帯夏緑広葉高木
比良山のオオイタヤメイゲツ林	B	冷温帯夏緑広葉高木
比良山のブナ林	A	冷温帯植生
北比良のアシウスギ林	H	冷温帯常緑針葉高木
武奈ヶ岳山頂のイブキザサ群落	H	冷温帯ササ原
北比良のアカガシ林	B	暖温帯夏緑広葉高木
明王谷のモミースナロ林	BH	暖温帯常緑針葉高木
比叡山のモミ林	GH	暖温帯常緑針葉高木
矢筈ヶ岳のヒメコマツ林	BH	暖温帯常緑針葉高木
湖南花崗岩地域のヒメコマツ林	D	暖温帯常緑針葉高木
園城寺のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
石山寺周辺のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
立木観音のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
若松神社のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
大日山観音堂のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
毛知比神社のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
南郷御霊神社のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
新茂智神社のシイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
楊梅滝のシイ林	GH	暖温帯常緑広葉高木
明王谷のシイ林	G	暖温帯常緑広葉高木
還来神社のコジイ林	E	暖温帯常緑広葉高木
八所神社のコジイ林	ACE	暖温帯常緑広葉高木
八所神社のタブ林	E	暖温帯常緑広葉高木
比叡山のスギ林	F	常緑針葉高木植林
八雲ヶ原の湿原	D	湿地植生
比良小女郎ヶ池の湿原	D	湿地植生
比良オトシの湿原	D	湿地植生
比良寒風峠の湿原	D	湿地植生
田上の湿原	D	湿地植生
南比良のハマヒルガオ群落	D	海浜植生
南比良のハマエンドウ群落	D	海浜植生

選定理由 A：原生林もしくはそれに近い自然林
 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
 E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
 F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長年にわたって伐採等の手が入っていないもの
 G：乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群（種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等）

出典：「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」
 （環境省生物多様性センター）

表2-9 巨樹・巨木林 一覧

名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
横川中堂	スギ	390	29
根本中堂	スギ	480	34
木戸	スギ	523	25
大物	ツブラジイ	336	20
南比良	ツブラジイ	850	15
南小松	スギ	532	25
南小松	スギ	352	20
南浜	アカマツ	812	15
県立体育文化館	モミバズカケノキ	436	22
善通寺	イチヨウ	380	25
長等神社	カツラ	330	13
-	クスノキ	335	23
倭神社	ケヤキ	525	23
厳島神社	イチヨウ	345	21
御田神社	クスノキ	525	25
大將軍神社	ツブラジイ	500	14
那波加荒魂神社	ケヤキ	336	23
石坐神社	エノキ	379	23
和田神社	ケヤキ	310	22
膳所高校	クスノキ	302	16
篠津神社	ケヤキ	350	26

出典：「第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査報告書」
 （環境省生物多様性センター）



写2-1 石坐神社のエノキ

エ 市指定保護樹木・保護樹林

大津市では、「大津市の自然環境の保全と増進に関する条例」に基づき、保護樹木 26 個体（表 2-10）と保護樹林 5 か所（表 2-11）を指定している。保護樹木のうち「和田神社のイチョウ」は、大津市の天然記念物に指定されている。また、「石坐神社の^{いあい}エノキ」、「篠津神社のケヤキ」、「長等神社のカツラ」等の 10 個体は、前述の「巨樹・巨木林」調査の対象木となっている（図 2-29）。



写 2-2 和田神社のイチョウ

表 2-10 大津市指定保護樹木 一覧

指定番号	樹木名	幹周 (cm)	樹高 (m)	推定樹齢 (年)	所在地	所有者	備考※
3	ケヤキ	282	15	100	和邇中 298	大津赤十字志賀病院	
4	イチョウ	210	15	150	札ノ辻 4-26	本願寺近松別院	
5	イチョウ	205	16	150	同上	同上	
9	エノキ	379	23	200	西の庄 15-16	石坐神社	B
10	イチョウ	435	24	600	木下町 7-13	和田神社	A
13	ケヤキ	350	26	400	中庄一丁目 14-24	篠津神社	B
14	クスノキ	188	13	70	園山一丁目 1-1	民間企業	
15	カツラ	330	13.7	300	三井寺町 4-1	長等神社	B
17	クスノキ	325	21.1	350		個人	
18	クスノキ	335	23.9	350		同上	
19	イチョウ	345	21.1	300	下坂本五丁目 8-5	厳島神社	B
20	シダレヤナギ	204	14.7	100	島の関 1-60	大津市立中央小学校	
21	イチョウ	200	13.2	130	本堅田一丁目 22-30	本福寺	
22	シイ	500	14.1	300	坂本六丁目 1-19	大將軍神社	B
23	イチョウ	380	25.6	300	京町二丁目 1-16	善通寺	B
24	モミジバスズカケノキ	436	22.4	700	京町三丁目 6-23	滋賀県	B
25	クスノキ	267	18.6	200	大江二丁目 28-41	西徳寺	
26	ケヤキ	336	23.4	300	苗鹿一丁目 9-13	那波加荒魂神社	B
28	ケヤキ	525	23	400	滋賀里三丁目 1	倭神社	B
29	クスノキ	270	23.9	250	同上	同上	
31	クスノキ	241	16.5	80	膳所二丁目 11-1	滋賀県立膳所高等学校	
32	クスノキ	302	16	80	同上	同上	B
33	クスノキ	226	12	80	同上	同上	
34	ムクロジ	240	15.6	200	下坂本六丁目 8-10	磯成神社	
36	ツブラジイ	450	12	300	堅田二丁目 1-1	民間企業	
37	クスノキ	400	11.5	150	同上	同上	

（注 1）指定 No. 3 は、平成 20 年に大津赤十字病院（長等 1 丁目 1-35）の新築建て替えに伴い、現在地に移植された。

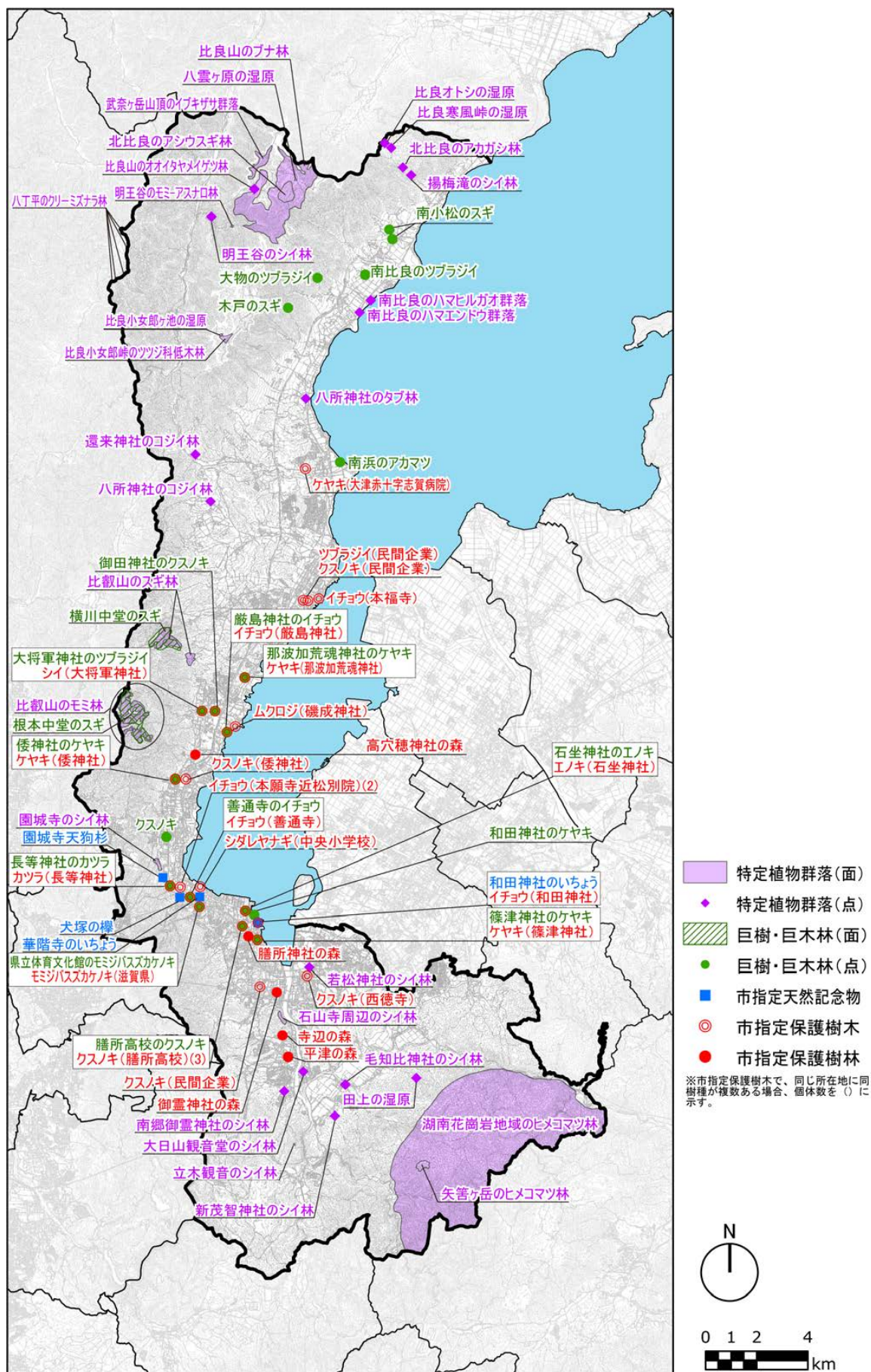
※ A：市指定天然記念物に指定。B：自然環境保全基礎調査（巨樹・巨木林調査）における「巨樹・巨木林」に指定。

出典：大津市の環境（平成 30 年度版）より作成

表 2-11 大津市指定保護樹林 一覧

指定番号	樹林の名称	面積 (㎡)	所在地	所有者	指定年月日	備考
1	御霊神社の森	2,570	鳥居川町 14-13	御霊神社	昭和 52 年 8 月 1 日	
2	高穴穂神社の森	3,647	穴太一丁目 3-1	高穴穂神社	昭和 53 年 2 月 1 日	
3	膳所神社の森	5,728	膳所一丁目 14-14	膳所神社	昭和 53 年 2 月 1 日	
4	平津の森	12,926	平津二丁目 9-13	戸隠神社	昭和 56 年 3 月 1 日	
5	寺辺の森	14,700	石山寺二丁目 13-16	新宮神社	昭和 57 年 6 月 1 日	

出典：大津市の環境（平成 30 年度版）を元に作成



出典：自然環境保全基礎調査[第5回特定植物群落調査][第4回巨樹・巨木林調査]、大津の環境（平成30年度版）

図 2-29 特定植物群落、巨樹・巨木林及び保護樹木・樹林の分布

オ 動物層の分布²

① 琵琶湖

琵琶湖において、これまで報告された水生動植物は1,700種以上であり、このうち66種が固有種（亜種・変種を含む）である。魚類では、ニゴロブナ、ビワコオオナマズなど16種が琵琶湖水系の固有種である。固有種には、琵琶湖で特徴的な沖合や岩礁帯などの環境で独自の生活様式を取得しながら進化した種、長い歴史の中で琵琶湖にのみ生き残ってきた種（遺存固有種）がある。また、貝類ではナガタニシ、セタシジミ、イケチョウガイなど29種が琵琶湖水系の固有種である。



写 2-3 琵琶湖固有種のビワマス
(琵琶湖博物館提供)

琵琶湖は、鳥獣保護区であり、冬季にはコハクチョウやオオヒシクイ、多くのカモ類などが飛来する。また、夏季にはオオヨシキリやサンカノゴイ、ヨシゴイ、バン、カイツブリなどが琵琶湖岸や内湖のヨシ原で繁殖する。

湖岸の砂浜・ヨシ原・湖畔林・岩礁地は、多くの貴重な昆虫の生息地となっている。琵琶湖岸や内湖周辺の低地で比較的多く見られるものに、トンボ類があげられる。『滋賀県レッドデータブック 2015 年版』の絶滅危惧Ⅱ類のメガネサナエとオオサカサナエは、琵琶湖の準固有種ともいえる。このほか、琵琶湖固有の昆虫としてはカワムラナベバタムシ、ビワシロカゲロウ、分布上重要種のビワコエグリトビケラとビワアオヒゲナガトビケラなどがあげられる。

② 比叡山

比叡山の標高 500m以上の地域は、昭和 5 年（1930）に鳥類繁殖地として国の天然記念物に指定された。指定当時は、18 科 80 種の鳥類が記録された。比叡山ではキツツキ類やツツドリ、クロツグミ、イカルなどが多く繁殖しているのが特徴である。また、溪谷を好むミソサザイ、オオルリ、キビタキなども繁殖する。哺乳類はニホンザル、シカ、イノシシ、キツネ、タヌキなど大型哺乳類が生息する。昆虫類は、絶滅危機増大種のダイコクコガネ、アミメキシタバ、ワスレスナグモ、キシノウエトタテグモなどや、希少種のトゲグモなど、要注目種のセアカオサムシ、フチムラサキノメイガなど、多くの種類が記録されている。

③ 比良山地

比良山地は動物の生活や繁殖に適した環境が整っている。そのため、哺乳類はニホンザル、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、イノシシ、シカなどの大型哺乳類を見ることができる。また、渡り鳥の中継地であるため、春と秋の渡りのときにはツグミ、アトリ、カシラダカなど多くの鳥類を観察できる。クマタカやノスリ、ハイタカ、サシバなどの猛禽類も生息する。比良山地でこれまでに 100 種を超える鳥類が確認されている。

爬虫類としてはヤマカガシ、ヒバカリ、シロマダラなどが、また両生類としてはヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、モリアオガエルなどが生息する。昆虫類にとっても多様な生息環境となっており、希少種のムナコブハナカミキリなどや、要注目種（生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種）のマヤサンコブヤハズカミキリなどがあげられ、分布上重要種のコエゾゼミ、ツヤクロスズメバチ、ヒウラシリアゲなど、多くの種類が生息する。

² 琵琶湖ハンドブック三訂版 平成 30 年 3 月 滋賀県

